

次に小さい問題から始めて、普通に出て来る場合を順順に述べる。

277. 形容詞は *siroi, utukusii, rippana, kantanna* のやうな形でなければならない。 *siroki, utukusiki, rippanaru, kantannaru* のやうな形は文章體である。

278. 一つの名詞を形容する形容詞が二つある場合の言ひ方に、例へば

hosoku nagai Ito と *hosoi nagai Ito*

と二通りある。文語の流義で行けば、前の方が正式であるけれども、口語では、後の方の云ひ方が普通であるから、ローマ字では後の方を正式としたい。尤も

hosokute nagai Ito

のやうな云ひ方なれば差支ない。

279. gotoki は *yôna* 又は *nado* と言ひ換へられる。例へば *Yama no gotoki Nami* は *Yama no yôna Nami* と、*Doituzin no gotoki wa.....* は *Doituzin nado wa.....* とする方がよい。

280. gotoku は *yôni* 又は *yô de* と、*gotoku da* は *yô da* とする方がよい。例へば *Yuki no gotoku siroi* よりは *Yuki no yôni siroi*; *Kao wa Hana no gotoku, Mayu wa Tuki no gotoku da* よりは *Kao wa Hana no yô de, Mayu ô da.*

281. *beki* といふ語は本當は口語體の文章には使はない方がよい語であるけれども、これに換へるべき適當な語もないし、又實際にも使はれて居るから使つても差支ない。但し、*beku* は *narubeku* のやうな出来上がった語の外、使はない方がよい。*besi* は勿論口語體の文章には使つてはならない。

282. 文章體で二段活用の動詞は口語體では一段活用になる。故に *ukuru toki, arawaruru Katati* などのやうな形はいけない。これらは *ukeru toki, arawareru Katati* などのやうにしなければならない。尤も「あくる日、あくる朝」(*akuruhi, akuruasa*) のやうに全體として出来上つた語は別である。

二段の動詞へ *beki* のついた云ひ方も、出来上つた方の場合として、*ukubeki, arawarubeki* のやうな形が聞きよいやうに思ふ。これは前にも言つたやうに *-beki* といふ語が元來文語體であるからである。尤もこれらは *ukerubeki, arawarerubeki* (又は *ukebeki, arawarebeki*) としてもよい。(或はさうした方がよいかも知れない)。殊に二行二段の動詞から來た *kangôbeki, tonôbeki* などは *kangaerubeki, tonaerubeki* とした方がよいと思はれる。

283. 文章體の將然形 *kakaba, yomaba* のやうなのは口語では使つてはならない。但し *naraba (nara)* 及び *-taraba*

(-tara) だけは口語體にも使ふ。例へば *kaku naraba, kaitara* のやうに。

284. 打消を表すのに *kakan, kon* のやうに *-n* を使ふのはよくない。*kakanai, konai* のやうに *-nai* を使ふことにしたい (*masen* や、特別に慣れた語、例へば *kesikaran, dô sita ka siran* などは取り除けとして)。*-n* は *-nai* に相當する關西の云ひ方であるが、*kakan, kon* は文語口調では *kakô, koyô* (關西では *kô*) の意味になるから、場合によつてまぎれる虞れもあり、さうでなくても、大切な打消が *-n* といふ小さい字一つで表はされるのは、文章を見て意味を解して行くのにも短かすぎるから、ローマ字文では *-nai* といふ形を使ふことにしたいと思ふ。

-nu (*kakanu, konu*) は実際には云はない形であるのに、書いた口語體に多く使はれて居る。その理由は明でないが、或は假名で書くときに「ない」の二字よりも「ぬ」の一字の方が手數と場所と省けるためか、又は、口語體は長たらしくていけないといふ批評がその使ひ初めには特に多かつたから、なるべく短かくといふ要求から口語文章家の書き慣らしたものではあるまいか。兎に角これは本當の口語ではないし、ローマ字では *-nai* が長過ぎるわけでもないから、*-nu* を全く廢して *-nai* に改めるのが至當である。

285. *kara* の意味で *yor* を使つてはならない。口語の

yor は「よるか、よりも」の意味にだけ使はれる。それ故、例へば *Tôkyô yori Oosaka made* とは言はないで、必ず *Tôkyô kara Oosaka made* と書くことにするがよい。

yor が較べる意味のときも、*kara* の意味のとまぎれる傾きがあるから、成るべく *yorimo* (*yor* *wa, yor* *ika*) とした方がよい。*Tôkyô yori Oosaka e yukitai* よりも *Tôkyô yorimo* (*yor* *wa, yor* *ika*) *Oosaka e yukitai* がよい。

「にて」「に於て」と書ける處は大抵 *de* がよい。例へば *Tôkyô nite* は *Tôkyô de*。

關係詞の *wo* に廣さ詞の *wa* 又は *mo* がつく時は、文章體では *woba, womo* となるけれども、口語體では *wo* を全く略してしまつて單に *wa, mo* とするのが普通である。併し意味を明瞭にするために、又は口調のために *woba, womo* といふ形が使はれることもある。例、*Rikutu nimo modori, Sinpo womo samatageru*。

286. 所有の意味を表はすのに (又はそれと同等な使ひ方で) *ga* といふ關係詞を使つてはならない。故に *sore ga tame* は *sore no tame* 又は *sonotame* (§293) と言ひ換へる。「我が國」といふ場合だけは出來上がった語と見て *Wagakuni* と一と綴りに書く。*Wagakuni* 以外の場合に於て *waga* といふ所有代名詞を使つて便利な場合もあるけれども、これは後に (§293) 述べる *sono* と同じやうな譯で、

これは大正三年三月の Rômazi Sekai に出した案であるが、公を Kin と讀むのは「公達」や人の名前の「公望、公任」などに使はれてふさはしい讀み方であるから、Kin-syaku は一般に行はれてよい言ひ方だと思ふ。

293. sono といふ語は、口語體では、ano, kono とともに指示形容詞としてだけ使はれる。sore といふ代名詞に所有の意味の（又は主格を表はす）關係詞の no のついた sore no と sono を混同してはならない。文章體では so といふ代名詞に所有の意味の（又は主格を表はす）關係詞 no がついた so no といふ言ひ方があるけれども、（形容詞の sono も語源から言へば、この so no から來たものであるけれども）、口語體では so といふ代名詞はないのであるから、sore no といはなければいけない。例へば Meisi wa sono Seisitu ni yotte Koyûmeisi to Hutûmeisi to ni wakareru; watasi wa sono nani de aru ka wo siranai などといふ言ひ方は間違つて居る。これ等は、

Meisi wa sore no Seisitu ni yotte.....

watasi wa sore no (又は sore ga) nani de aru ka...

としなければならない。實際には、現今口語體で sore no の意味で sono といふ語がまだ盛んに使はれてゐるけれども、これは文法上間違つて居るといはなければならない。よし又、假に文法上では例外として——sore の所有格に

sono を——認めるとしても、實地のローマ字書きでは、形容詞の sono とまぎれて、ローマ字文を見ただけで意味をとるやうな場合に甚だ不都合である。

實際の模様を見ると、この sore no の意味の sono をあまり使ひ過ぎてゐるやうである。即ち全く必要のない場合に使はれて居る例が澤山ある。例へば

Tarô wa Ki kara otite sono Te wo otta.

といふ文章では sono は全く不必要である。(ano nê の ano や、全く何の意味もなく文章の中に挿んで使ふ sono ——例へば

Zituwa sono syôsyô Onegai ga gozaimasite.....

に於ける sono など——は茲にいふのとは又別である。)

「その代り」「その上」「その爲に」なども本當は sore no kawari, sore no ue, sore no tameni などとすべきであるけれども、これらは出來上がった語として sonokawari, sonouue, sonotameni などと一と續けに書く。[これは、獨逸語で von dem, aus dem などとすべきのを davon, daraus などとするのと似たやり方である。]

hō のついた sono hô, kono hô, ano hô などは siroi hô, kuroi hô などと同じ言ひ方として sono, kono, ano の形を認めてよい。但し sore no hô, kore no hô などとも勿論正しい。

文法上口語體の文章の中に使ふべき語としてはふさはしくないものであるから、あまり使はない方がよい。

287. 「と」で列べた語(又は句)では、Yama to Kawa to のやうに、各語(又は句)の後に to を置くのが正式であるけれども、口語では、場合によつて、Yama to Kawa, ôkii no to tiisai no, katte kita no to moratte kita no のやうに一番終りの語(又は句)の後には to をつけない言ひ方も多く使はれる。

併し場合によつては、一番終りの語(又は句)の後にも是非 to をつけなければ意味が不明瞭になることがある。例へば Sankiti to Masatarô no Otôto ga kita では Sankiti to Masatarô no Otôto to ga kita のか Sankiti to Masatarô to no Otôto が来たのか分らない。又、ga 又は wo を廣さ詞に言ひかへる言ひ方では (§245) 一番おしまひにも to をつけるのが普通である。例へば、

Ookii no to tiisai no to (ga の代り) arimasu.

Ookii no to tiisai no to (wo の代り) motte imasu.

288. 「何々等」「何々等」といふ言ひ方はローマ字文にふさはしくない。大抵の場合に nado と言ひかへるがよい。

289. naninani-sen to suru, naninani-sen ga tameni などといふ言ひ方は口語體としてよろしくない。naninani-siyô to suru, naninani-suru tameni などとする方がよい。

naninani-sezarubekarazu は勿論、naninani-sezaru wo enai といふやうな言ひ方もあまりつかはない方がよい。naninani-sinakutewa ikenai (naranai), naninani-sinaidewa (又は -sezuniwa) irarenai, naninani-sinai wake niwa yukanai などといつた方がよい。

290. 「絶對的價値」「根本的原理」「流行性感冒」「簡易生活」などの「絶對的」「根本的」「流行性」「簡易」などは、形容詞の形(語尾)を備へて居ないから、上のやうな語は、何れも全體で組合せ名詞と見るべきもので、Zettaiteki-kati, Konponteki-genri などと書くべきである。併し、それよりは前の部分へ形容詞の語尾を付けて

zettaitekino Neuti, konpontekino Genri,

ryûkôseino Kaze, kan'ina Seikwatu

などとする方がよい。

291. 三博士、五大尉などはよく使はれる言ひ方であるが、sanninno Hakusi, goninno Taii とした方がよくわかる (§242)。

292. 人の姓に爵位をつけて呼ぶときに西園寺侯、東郷伯のやうな略した言ひ方が使はれるが、それよりは Saionzi Kôsyaku, Tôgô Hakusyaku のやうな正しい言ひ方を使つた方がよい。ついでに公爵は近來(侯爵と紛れない爲に) Kinsyaku と云ふ人が大分出來て來たやうである。

これは大正三年三月の Rômazi Sekai に出した案であるが、公を Kin と讀むのは「公達」や人の名前の「公望、公任」などに使はれてふさはしい讀み方であるから、Kin-syaku は一般に行はれてよい言ひ方だと思ふ。

293. sono といふ語は、口語體では、ano, kono とともに指示形容詞としてだけ使はれる。sore といふ代名詞に所有の意味の（又は主格を表はす）關係詞の no のついた sore no と sono を混同してはならない。文章體では so といふ代名詞に所有の意味の（又は主格を表はす）關係詞 no がついた so no といふ言ひ方があるけれども、（形容詞の sono も語源から言へば、この so no から來たものであるけれども）、口語體では so といふ代名詞はないのであるから、sore no といはなければいけない。例へば Meisi wa sono Seisitu ni yotte Koyûmeisi to Hutûmeisi to ni wakareru; watasi wa sono nani de aru ka wo siranai などといふ言ひ方は間違つて居る。これ等は、

Meisi wa *sore no* Seisitu ni yotte.....

watasi wa *sore no* (又は *sore ga*) nani de aru ka...

としなければならない。實際には、現今口語體で *sore no* の意味で *sono* といふ語がまだ盛んに使はれてゐるけれども、これは文法上間違つて居るといはなければならない。よし又、假に文法上では例外として——*sore* の所有格に

sono を——認めるとしても、實地のローマ字書きでは、形容詞の *sono* とまぎれて、ローマ字文を見ただけで意味をとるやうな場合に甚だ不都合である。

實際の模様を見ると、この *sore no* の意味の *sono* をあまり使ひ過ぎてゐるやうである。即ち全く必要のない場合に使はれて居る例が澤山ある。例へば

Tarô wa Ki kara otite *sono* Te wo otta.

といふ文章では *sono* は全く不必要である。(ano *nê* の *ano* や、全く何の意味もなく文章の中に挿んで使ふ *sono* ——例へば

Zituwa *sono* syôsyô Onegai ga gozaimasite.....

に於ける *sono* など——は茲にいふのとは又別である。)

「その代り」「その上」「その爲に」なども本當は *sore no kawari*, *sore no ue*, *sore no tameni* などとすべきであるけれども、これらは出來上がった語として *sonokawari*, *sonoue*, *sonotameni* などと一と續けに書く。[これは、獨逸語で *von dem*, *aus dem* などとすべきのを *davon*, *daraus* などとするのと似たやり方である。]

hō のついた *sono hō*, *kono hō*, *ano hō* などは *siroi hō*, *kuroi hō* などと同じ言ひ方として *sono*, *kono*, *ano* の形を認めてよい。但し *sore no hō*, *kore no hō* なども勿論正しい。

294. 詞を重ねた文句。文語體では同種類の文句を、あひだに語尾や連絡の詞を挿まないで、重ねて使ふことが多い。こんなのは適當にほどいて書くがよい。例へば、

文章を平易簡単にし = *Bunsyô wo heini katu kantanni site.*

思想を正確自由に發表する = *Sisô wo seikakuni katu ziyûni happyôsuru.*

必要缺くべからざる = *hituyô de (katu) nakute naranai.*

儀式公會の席 = *Gisiki ya ôyakeno Yoriai (no Basyo).*

内治外交諸般の政務 = *Kuniuti wo osameru koto ya Gwaikoku tonô Tukiai nado iroirona Seidimuki.*

295. 一般の注意。上に並べたのは、形の多少きまつた場合であるが、其他の一般の場合について云へば、§260で述べた通り、

a. ローマ字は言はらとする意味を自分の頭から直接に書くがよい。

b. 漢字交り文で書いてあることをローマ字文に直すにしても、同じわけで、其内容を頭に入れて、漢字の文句に拘泥せずに新たに自分の頭から直接にローマ字文にするがよい。

下に二三の例を掲げる。

盛年重ねて來らず = *wakai Toki wa nido to konai.*

歲月人を待たず = *Tukihi wa Hito wo matte inai.*

肝膽を照す = *Mune (no naka) wo utiake-au.*

動靜を探知す = *Yôsu wo saguru.*

醜態を曝露す = *Boro wo dasu.*

官吏の戦々兢々 = *Yakunintati no Bikubikumono.*

國家百年の長計 = *Kokka no suenagai Hakarigoto (Sigoto).*

紛擾に次ぐに紛擾を以てす = *Gotagota ga tuduku.*

上も下も老も若きも = *Zyôryûsyakwai mo Kasôsyakwai mo, mata Tosiyori mo Kodomo mo.*

一見致候 = *(zatto, hitotôri) mimasita.*

旅行中にて失禮致候 = *Tabi ni dete imasite, siturei desita.*

296. も一つの一般の注意は、

句切り (,) ばかり使つて、どこまでもだらだらと續く文章をなるべく避けること。

日本文は兎角、*node, kara, keredo, ga, de, -te(-de)* などだらだらと續きたがるが、書いたものを見る時には見さかひがつかなくて、大變了解に不便である。適當に切つて、止め (.) を置くなり、又は (中味の關係から別の文章にしたくない時には) 大句切 (;) を使ふなりして、文句の切れる處を作るがよい。例へば

Syokubutu de ieba, Mukasi no Hito ga, "Uri no Turu niwa Nasu wa naranai" to itta ga, naruhodo ikura Uri no Tane wo maitemo, Nasu wa denai si, mata Nasu no Tane wo maitemo, Uri wa denaide, Nasu karawa kitto Nasu, Uri karawa kitto Uri ga deru ga, sikasi, Iden wa kore bakari de nakute, motto komakai Ten made yuku.

これを切つてこんな風にかける：—

Syokubutu de ieba, Mukasi no Hito ga, "Uri no Turu niwa Nasu wa naranai." to itta. Naruhodo ikura Uri no Tane wo maitemo, Nasu wa denai; mata, Nasu no Tane wo maitemo, Uri wa denai. Nasu karawa kitto Nasu, Uri karawa kitto Uri ga deru. Sikasi, Iden wa kore bakari de nakute, motto komakai Ten made yuku.

いろいろな書式

297. 所書き。(1) 所書きの順序は、英語風などは小さい地名から大きい地名へといふ順になつて居るけれども、日本語では、反対に大きい方から始めて小さい方へ記して行くときまつて居る。ローマ字を使ふとなつても、此習慣を變へるべき理由は少しもないから、順序は普通云ふ通りにする。

(2) 「府」「縣」「郡」「市」「町」「村」などの添へ詞は通、

常それを付けなくて只「東京」「神奈川」「豊多摩」「仙臺」「山口」(山口縣廳のある山口町)などと云ふから、間になぎを挿んで書くが適當である。

Tôkyô-hu, Kanagawa-ken, Toyotama-gun, Sendai-si, Yamaguti-mati, Meguro-mura.

(3) 町村制の町ではなくて、市街の中の通り又は區劃の「何町」(「何小路」なども同様)は、必ず前に添へて云ふから、つなぎを挿まずに書くのを原則とする。

(4) このやうな町名の頭に、もう少し廣い土地の呼び名を添へる(例へば「駒込曙町」の駒込の様なもの)こともあるが、それは離すがよい。

(5) 「何丁目」は、普通は數字でなくローマ字で書き、略して書く時だけ數字を使ふがよい。

(6) 番地は、數字で書くのを普通とし、後に -banti (略して bt.) をつける。

Tôkyô-si Hongô-ku Komagome Nisikatamati 10-banti.

(略して 10 bt.)

Kôdimati-ku Huzimityô Santyôme (略して 3-ty.)

Saitama-ken Kita-adati-gun Urawa-mati.

298. 肩書き。役目の書き方の例を挙げると、

Naikaku-Sôridaizin, Rikugun-daizin,

Monbu-zikwan, Tûsyôkyokutyô,

Monbu-daizin Hisyokwan,
Rikugun-taisyô, Hôhei-taii,
Tôkyô Teikoku-Daigaku Kyôzyu,
Tôkyô Dyosi-Kôtô-Sihangakkô Kyôyu.

学校の校長の肩書が「何々學校校長」であるならば、上の Kyôzyu, Kyôyu の例のやうに、學校の名の次に Kôtyô として適當である。「校長」といふ日本語を認めて、それと學校の名を組合せるとすれば、さうするのが至當で、將來多分さうなるものだらうと思ふ。それなれば、

Daiiti Kôtôgakkô Kôtyô

Tôkyô-huritu Daisan Tyûgakkô Kôtyô

としてよいわけである。所が、現在の所、「校」の字を一つ儉約して、「第一高等學校長」「東京府立第三中學校長」といふやうに云ふ。併し「長」といふ日本語が別にあるとは云へないから、これはどうしても接尾語の類として、前へつけて書く必要がある、而も、その接尾語は「第一高等學校」「東京府立第三中學校」全體へ付く「長」だから、

Daiiti-Kôtôgakkô-Tyô

Tôkyôhuritu-Daisan-Tyûgakkô-Tyô

のやうに全體を一つにつなぐことが必要になる (§154)。

299. 位、勳、功、學位、爵などは

Syô-Nii, Zyu-Zanmi; Kun-Ittô, Kô-Sankyû;

Hôgakusi, Suisangakuhakusi.
Hakusyaku, Kôsyaku

の例に書く。「公爵」と「侯爵」とは、Kinsyaku, Kôsyaku と言ひ分ける習慣が出来ると都合がよい。

「何學士」「何學博士」を略字で書く習慣が出来ると都合がよいが、案として

Hg. (法), Kzg. (經濟), Ig. (醫), Kg. (工), Bg. (文),

Rg. (理), Ng. (農), Zg. (獸), Sg. (水), Rng. (林).

Hgh. Kzgh. Igh. Kgh. Bgh. Rgh. Ngh. Zgh. Sgh. Rngh.

がよいかと思ふ。西洋のには大文字を二つ以上書くのが多いから、上のやうなのは物足りなく思ふ人もあるかも知れないけれども、元來が簡単な爲に書くのだから、少し慣れば、上のやうに一語の略字といふ形になつて居る方が却て便利になると思ふ。

300. 名刺。名刺に肩書を付ける順序も、西洋と日本と反對であるが、これも日本語では日本流に云ふのが當然である。例へば

Naikaku-Sôridaizin Kaigun-taisyô
Syô-Nii Kun-Ittô Kô-Nikyû
Hôgakuhakusi Kôsyaku **Katô-Kiyomasa**

Nippon-no-Rômazi-Sya Rizi
Rigakuhakusi Tamaru-Takurô

Tôkyô-si Hongô-ku
Komagome Akebonotyô 11 bt.

のやうに書く。

301. 手紙。手紙の中味の書出しは

Nanno-Tare Sama,
Kanete môsiagete okimasita
Yômuki wa.....

のやうに書くのを普通とする。第一行の代りに、

心安い人には

Itô Kun,
Boku wa kondo.....

先方の姓名を呼ぶのを憚るやうな場合には、

Môsiagemasu,
Kanete.....

などと書くがよい。

302. 手紙の書き納めは、

Kasiko.

Tsy. 8 n. 9 gt. 10 ka

Tamaru-Takurô

と書くのを普通とする。Kasiko の代りに

Sayônara! 又は Sayônara, gokigen'yô!

などとしてもよい。

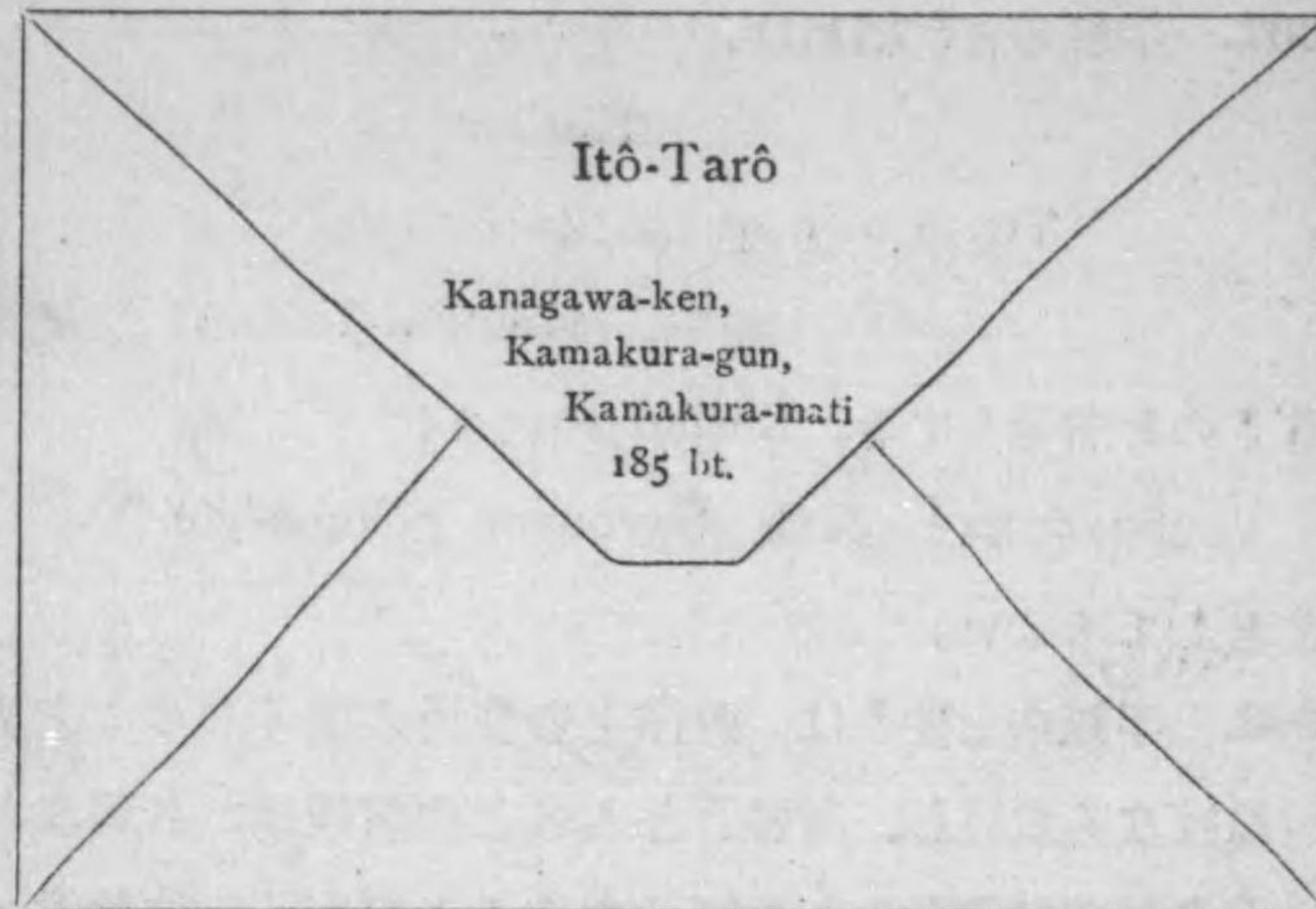
303. 手紙の上書きは、西洋との交通の繁くなることも考へねばならないし、所書きと人名との前後は、名刺などで、人名を前に書くことも既にあることだから、彼此考へ合せて次の例によるのが適當であると思ふ。

Katô-Kiyomasa Sama

Tôkyô, Hongô-ku

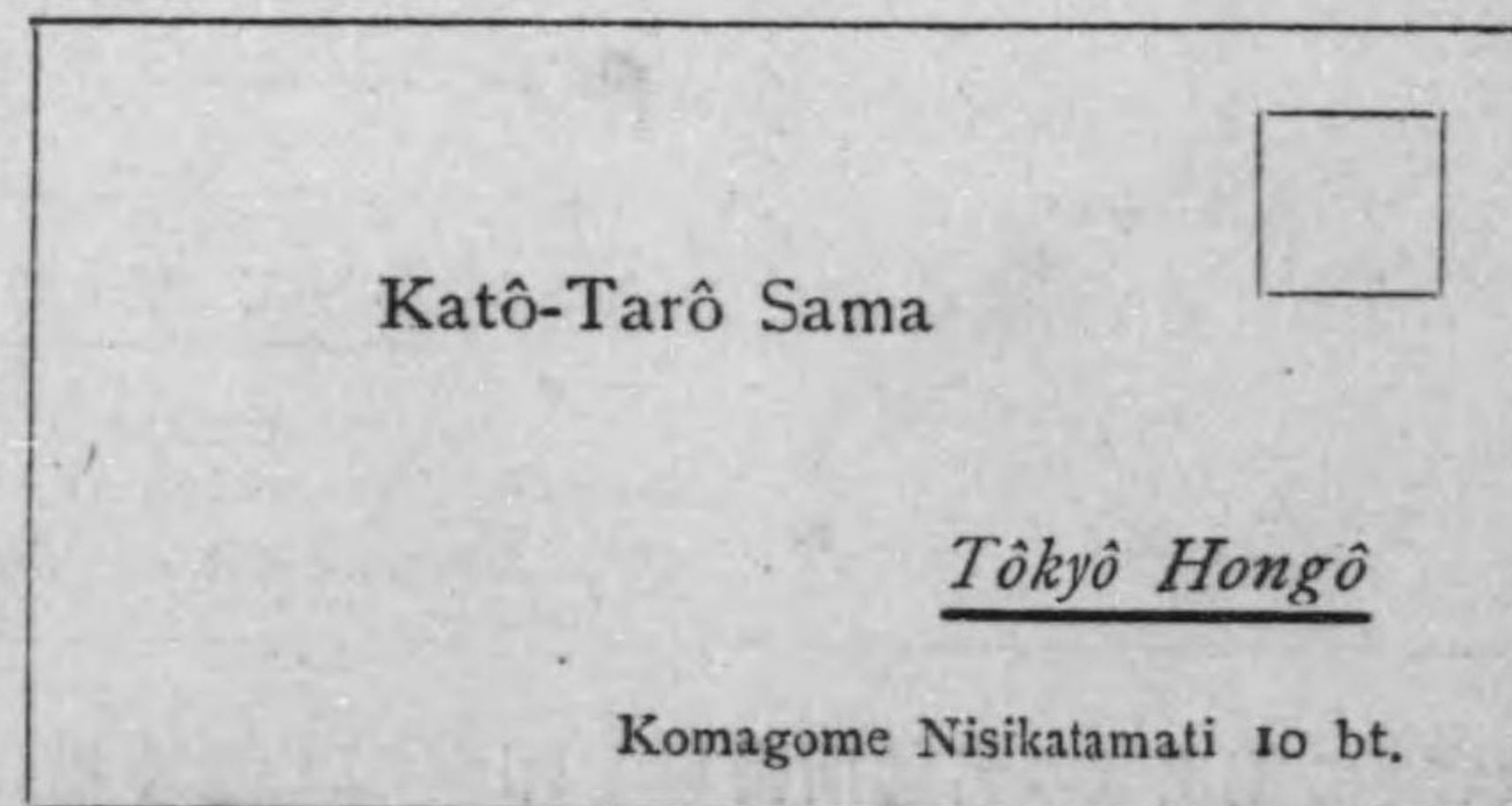
Komagome Akebonotyô 11 bt.
Nippon-no-Rômazi-Sya uti

状袋に差出人の名前所番地を印刷して置く場合には表で

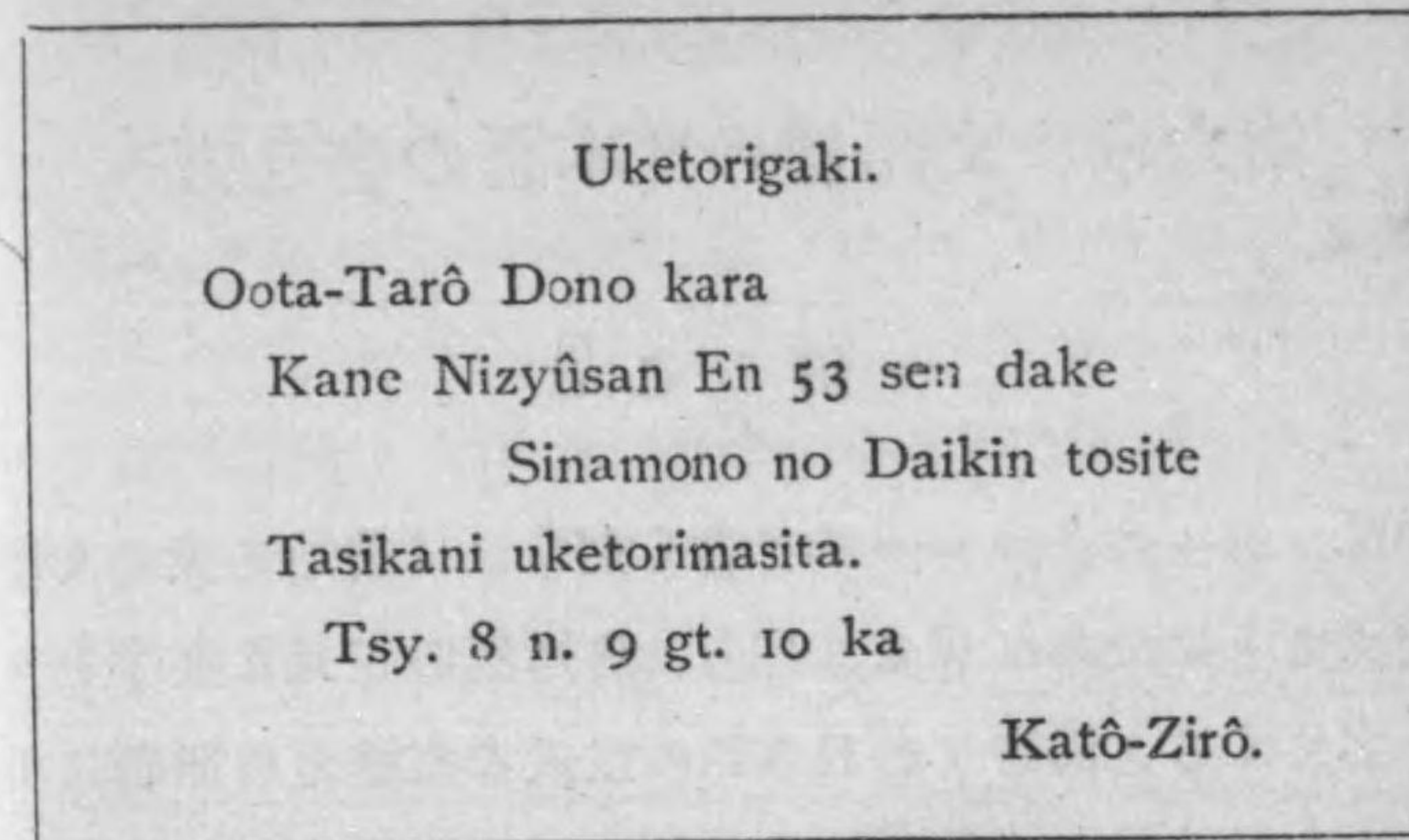


の左上の隅に印刷して置く。

304. はがき。はがきは、文句は手紙と同様でよからうが、表ての書き方が問題である。漢字で書いて居る習慣から云ふと、切手を左下にして書きたい氣もするけれども、これも外國との交通の點を重いとして、西洋流に切手を右上にして次のやうに書くがよい。



305. 受取り書きは次のやうなのがよからう。



金額の前後に *Kane, dake* と添へるのは、金額の頭や終りに書き足すことの出来ない爲の用意を兼ねたのである。

306. 包み物の上書き。品物や金の包み方は、ローマ字にする爲に變へる必要はない。それに書く文句の例。

OREI	OREI no Sirusi	OIWAI	OIWAI no SIRUSI
Sosina	Osonaemono	OKOO no SIRO	OHUSE

第六章 文語體の日本語の書き方

一般のこと

307. 吾々は、ローマ字で書く文章には普通の話の文體を使ふことに決めて居る。即ち、日本語の正式な文字をローマ字にすると同時に、日本語の正式な文體を口語體にすることを目的として居る。それ故に、ローマ字の文法上の事も、口語體を主にして研究してゐるのであるが、然し特別な場合——歌や俳句のやうな特別な作品や、既に文語體で出来て居る文章をローマ字で書く場合など——には矢張りローマ字で文語體を書くことが必要である。

308. 文語體と口語體と違ふ點が色々あるうち、文法上で最も目立つのは次の點であらう。

(1) 口語體で關係詞 *ga*, *wa* 又は *wo* を使ふ所にそれを使はないことが多い。例へば、*Haru (ga) sugite*; *Kiri (ga) tatinoboru*; *Nagisa (wo) kogu*; *Genzi (ga) okori Heisi (ga) horobu* などのやうに。

(2) 動詞や形容詞の變化が違ふ。例へば、*okiru*, *suteru* を *oku*, *sutu* と云ひ; *kakô*, *siyô* を *kakan*, *sen* と云ひ;

siroi, *koisii* を *sirosi*, *siroki*, *koisi*, *koisiki* と云ふやうに。

(3) 動詞につく助動詞や關係詞、接續詞などに違ふ言ひ方が使はれる。例へば、*kaita* を *kakitari*, *kakikeri*, *kakiki* と云ひ、*kakô*, *kaku darô* を *kakan*, *kaku ran* と云ひ、*(koko) kara*, *(asoko) de* を *(koko) yori*, *(kasiko) nite* と云ひ、又接續詞に *kakute*, *sareba* などがあるやうに。

これらをローマ字で書くときの附け離しについては、重立つた點では別段な問題は起らない。只助動詞が澤山重なる場合で口語文の方針で行つては餘りつき過ぎるやうな場合には、便宜上適宜に切つて書く必要がある (§ 317)。

309. 又文語、特に漢文口調の文章では(候文も或程度までは)、口語なら關係詞や語尾などのあるべき處に、それがなくて只漢語を並べ立てたやうな句が極めて普通である(例は § 318—321 にある)。

かういふ文章を、口語を書く時のやうな規則で書いて行くと、性質上不適當なものまでもつづけた大變長い組み合わせ名詞や組み合わせ動詞が出来て、書いても見ても面白くないものになる。

それ故に、文語體の文章をローマ字で書くときには、口語に行はれるやうな規則に拘らず、關係詞や語尾で文法上の關係の表はれて居ない語でも、別々に離して書くことにするのは避けられない。

単語に關すること

310. 「思ふ」「會ふ」「戀ふ」「捕ふ」などの動詞——即ち假名の流儀でハ行の四段、中二段、下二段の動詞で、語尾の前に a 又は o の來る動詞——は讀みくせにかかはらず omou, au, kou, torau などと書く、即ちかう書いて omoo, oo, koo, toroo のやうに讀むものといふ規則にする(*)。

311. 二字の字音動詞の「發展する」のやうなもの、口語の書き方としては hattensuru とつゞけることにしてあるが、文語では前の漢語を重ねて使ふことが普通であるから、§ 309 の方針によつて、それが一つある場合でも、

膨脹す = bōtyō su.

發展膨脹して = hatten bōtyō site

などと漢語の次で離なすことにする。

312. 「なる」「たる」のついた「鮮明なる、潑刺たる」のやうなのは(「東京なる」などの「なる」は別として)形容詞にきまつて居るが、この「なる、たる」は、口語で形容詞の語尾にして居る -na と同性質のものであるけれど

(*) 之は土岐氏の Hyakunin Is-yu を出す頃は皆讀みくせの通り omoo, oo, toroo などと書く、針にして居たけれども、其後芳賀博士、保科學士その外の専門家の意見を参考した結果、この種類の動詞に限つて、上のやうに改めた。

も、文語では「なり、なれども、ならず、ならざれども」など、變つて長くなることもあり、又漢語を二つ以上重ねて使ふこともあるから、

senmei naru, haturatu taru, yūsō kwappatu naru,
ōi naru, myō narazu ya;

などと離す方が適當であらう。

313. 「われ」「なれ」「たれ」「おのれ」と同じ意味の「わ」「な」「た」「おの」の次に「が」のつゞく「わが」「なが」「たが」「おのが」は代名詞と關係詞と見て——それが主格の時でも所有格の時でも——wa ga, na ga, ta ga, ono ga と離して書く。「我國」のやうなのは wa ga Kuni とするか、又は一語と見て Wagakuni とする。

「それ」「これ」と同じ意味の「そ」「こ」に「は」「の」のつゞくのも同様に so wa, ko wa, so no, ko no と離して書く(口語では so や ko といふ代名詞がないから、「その」「この」などは指示形容詞ときまつて居ると見て、sono, kono, ano などと書く)。

314. 形容詞に sa や mi のついた語は口語では凡て名詞として大文字で書いて居る。文語でも Hutosa, Atumi などは勿論名詞でよいけれども、場合によつてそれが動詞的又は副詞的の意味を持つことがある。「秋の田のかりほのいほの苦を荒み」の「荒み」は「荒さに」の意、「もれいづ

る月のかげのさやけさ」の「さやけさ」は「さやけきことよ」の意味で、動詞的の意味がある。かういふ場合には“Toma wo arami,” “Tuki no Kage no sayakesa!” と小文字くする方が適して居ると思はれる。尤も、これはかういふ言ひ方に限るので、一般の場合、例へば「えも云はぬさやけさ」のやうな組立になれば「さやけさ」は全くの名詞で、大文字で *emo iwanu Sayakesa* とせねばならない。

315. 漢語の次に「の」の付いた文句では、例へば「多大の助力」「各種の論説」は *tadaino, kakusyuno* であるべきことは明かであるが、其他、「不得意の地位」「謹嚴の態度」「平和の家庭」のやうに「不得意なる」「謹嚴なる」「平和なる」と云ひかへられるのは形容詞と見るのが適當と思はれる。従つて *hutokuino, kingenno, heiwano* と書く。併し「筆の人」「口の人」は *Hude no Hito, Kuti no Hito* が適當である。又

動詞の意味を持つた熟語へ「の」のついたので、「の」を「なる」と云ひかへられないのは、*no* を離して書く方がよからう。例、*kôgai-hihun no Tomogara, tyûkun-aikoku no Samurai* など。

316. 漢文口調の文章では、副詞で語尾 (-*to* や -*ni*) のないのが特に多い。これ等は主格になる名詞と形が似て居るけれども、小文字で書く。

例へば「幹事詳細報告をなしたり」は「報告を詳細にした」の意味であるから、「詳細」は副詞である。従つて

Kanzi syôsai Hôkoku wo nasitari.

と書く。「急遽歸京したり」「漫然時日を経過す」の *kyûkyo, manzen* も同様副詞である。

助動詞と助詞の問題

317. 動詞に續く助動詞又は語尾を離なして書くか續けて書くかに就ての大體の方針は次の通りである。

間で詞を切つても詞をなす場合には離なす。さうでない場合には續ける。

この見分け方は場合によつてはつきりしないこともあるが、次のやうな取り極めで大きな間違ひはないと思ふ。

(a) 終止形と連體形の外で、次に助動詞や助詞の來るのはつゞける。

osazu, osanu, osane, osan, osanan, osamasi, osaba,osite, ositu, ositari, osinaba, osinan, osinu, osiki,osisi, osisika, osikeri, osiken, oseri, oseba, osedo,osedomo.

など皆續けて書く。

(b) 連體形と終止形に續く詞 *besi, mazi, nari, ran, meri, rasi, tomo* は離すのが適當に思はれる。

osu besi, osu mazi, miyūru nari, miyu nari,
miyu ran, miyu meri, miyu rasi, miyu tomo.

to, kasi, kana, ni, wo は勿論離す。

(c) 助動詞へまた助動詞が続く場合も (a) (b) に準ずる。ただ取りのけの場合として、過去及び打消の助動詞 (te, ni, tari, eri, zari) に続く *keri* (*keru kere*) と *ken* (*keme*) だけは便宜上離なす方がよいと思ふ。又 *tutu* は前で離すことは口語の場合と同様。

omowazariki, kakitariki, tikaitesi, someteki,
someniki(*);

sakini keri, usete keri, toritari keri, omowazari keri;
sakini ken, heni ken, omowazari ken.

(d) 漢文口調の文では、上の外に「何々せざれども、何々せざるべからず、何々せざるべからざれども」など、いろいろ組合せた言ひ方がある。これ等も上の規則に従つて次の例のやうに書く、(二字の字音動詞で字音の部分を離すことは §311 の通り)。

kaku besi, kaku bekereba;
kakazaru besi, kakazaru bekereba;
kaku bekarazu, kaku bekarazaredomo.

(*) 鳴海氏の “Tuti ni kaere” を出す時には *umarete si, someni ki* などとする方針にしてゐたけれども、*teki, niki* などは短いから、各々一つの助動詞 (組合せ助動詞) と見て續けて差支がないやうである。

詞のつづいた文句

318. 一つの動詞の連用形の次に外の普通の動詞が来る場合がある。口語ならば斯ういふのは二つの動詞の意味が密につながつてゐるので、組合せ動詞として續けて——時にはつなぎを入れて——書くのであるが、文語では (これと同様な場合も無論多く使はれるけれども、その外に) それぞれの事を表はす場合がある。例へば、

「舞ひ歌ふ、食ひ飲ひ、行き見る、報告し来る」
などは口語で *mattari utattari suru, kuttari nondari suru, itte miru, hōkokusite kuru* の意味で、組立動詞とは心持が違ふから、離したがよいと思ふ。

mai utau, kurai nomu, yuki miru, hōkoku si kitaru.

319. 漢語の名詞、動詞、形容詞をつづけたもので而もそれが一つに纏まつたものを表はして居ない場合 (§153 の B の場合と同様なもの) は文語體では特に多い。こんなのは離して書く。

主義綱領に於て = *Syugi Kōryō ni oite.*

才學品位ある紳士 = *Saigaku Hin'i aru Sinsi.*

言論文章の力を以て = *Genron Bunsyō no.....*

發展膨脹して = *hatten bōtyō site* (§311)

勇壯活潑なる = *yūsō kwappatu naru* (§312)

320. 二つの語が平行でなくて、前のものが後のものを形容する場合ならば、

dô Mondai (同問題)、iti Dingasa (一陣笠)、

syô Zizyô (諸事情)

のやうに、又組立言葉と見られるならば、

Sin-undô (新運動)、Zitubutu-kyôkun (實物教訓)

Ziyûtô-in (自由黨員)、Ziyûtô-syûmi (自由黨臭味)

などのやうに書かれる。

321. 二つの語の関係が、あひだに、ga, no, de, wo などの挿まるべき関係になつて居るものは間を離して書く。

情緒(が)纏綿たる = Zyôtyo tenmen taru.

流血(が)淋漓たる = Ryûketu rinri taru.

生氣(が)潑刺たる = Seiki haturatu taru.

東都(の)先輩の好意 = Tôto Senpai no Kôi.

歌壇(で)獨歩の姿 = Kadan doppo no Sugata.

原稿(を)謄寫の後 = Genkô tôsya no noti.

東京(を)出發の際 = Tôkyô syuppatu no sai.

當地(に)到着の節 = Tôti tôtyaku no setu.

山河(を)跋涉の快舉 = Sanga bassyô no Kwaikyo.

「ローマ字文の研究」附録

Kantanna

Bunpô-zibiki.

注意。ローマ字文の書き方の問題のうち、特別な語に關係しない爲に、この Bunpô-zibiki で調べることの出来ないものは此書の本文で調べられたい。中で要用なのを下に書き上げる(數字は節の數)。

綴り方

直音拗音、6. 引く音、69, 70. はねる音、76, 78. つ

まる音、79, 80. 「ツァ」、83, 84.

外國語、88, 89, 270-273. 外國の人名地名、90, 91.

組合せ詞と重ねた文句

一般の組合せ詞、131-133.

組合せ名詞、153-155. 組合せ動詞、171.

重ねた文句、294.

固有名詞

日本人の姓名、96. 肩書き、298.

會社、學校等、154.

地名、155. 住居の所書き、297.

名詞として大文字を使ふかどうか

「附添ひ名詞」ue, sita の類、145, 146.

「附添ひ名詞」hen, atari, izyô, ika の類、147.

「附添ひ名詞」 tumori, hazu, sei の類、148.
 他の種類の語の役をして居るもの、144.
 不定代名詞、157.
 時の副詞と時の名詞、218, 222.
 名詞から来た他の副詞、219, 220.
 物質名詞の形容詞、204.
 名詞から来た他の形容詞、202, 203, 207, 216.
 字音形容詞、198, 213. 字音動詞、167, 169.
 助数詞(枚、疋、貫、尺の類)、224.
 年月日時、232, 233.

動詞

字音動詞、167, 169.
 語尾の書き方、173, 183.
 命令形、175, 176, 187.
 名詞形の動詞と本當の名詞、193, 194.

形容詞

字音形容詞、198, 213.
 名詞から来たもの、202, 203, 204, 207.
 名詞と形容詞と兩方に使はれる語、216.

副詞

時の副詞、218, 222.
 名詞から組立てた副詞、219, 220.

數詞

算用數字の使ひ方、229.
 助数詞、224. 「三博士」の類、242, 291.
 接續詞、251.

略字の説明

(名) は名詞	(附名) は附添ひ名詞
(代) は代名詞	(助動) は助動詞
(關) は關係詞	(助數) は助數詞
(動) は動詞	(名尾) は名詞語尾
(形) は形容詞	(動尾) は動詞語尾
(副) は副詞	(形尾) は形容詞語尾
(數) は數詞	(名組) は組合せ名詞を作るもの
(廣) は廣さ詞	(動組) は組合せ動詞を作るもの
(接) は接續詞	(副組) は組合せ副詞を作るもの
(呼) は呼かけ詞	其他は之に準ずる。

見出しの標しは次の例による。

˘kata の ˘ は、前に来るものにつけることを示す。

go˘ の ˘ は、後に来るものにつけることを示す。

| は、その前と後とを離すことを示す。

anotôri (˘ni, ˘na) は、anotôri (anotôriⁿⁱ, anotôri^{na}).

anoyô˘na (˘ni, | de) は、anoyôna (anoyôⁿⁱ, anoyô^{de}).

見出しの中途に ˘ のあるのは、その前の部分へ括弧の中の語尾を添へることを示す。

括弧の中の ˘ni は副詞形、˘na と ˘no は形容詞形、| de は形容詞の動詞形の前の部分、˘wa と ˘mo はそれのつかないのと同種の語である。

注意。 この Bunpô-zibiki にある文例には、文章の中途にあるときに小文字で書くべき語は、文句の始にあるときにも、小文字にしてある。

A

â (副)

â iwaretara, kô iô.

âitta, âiu, âsita (形) 「あんな」と同様な意味の場合には、つづけて書く。

K. Kun wa âitta (âiu, âsita) Hito da kara,

「あんな」と同様な意味でなくて、「あのやうに云つた」「あのやうに云ふ」「あのやうにした」の意味ならば、â の次を離す。

â itta, â iu, â sita.

ageku (ni, no) (副、接) 小文字で書く。 (§ 144, 219)

Kyôsô no ageku, tomodaoreni natta.

sanzan asonda agekuni, Dorobô ni natta.

agekuno Hate..... では agekuno を形容詞と見る。

aida (附名、副、接) (no, ni) 「あいだから」の意味ならば、名詞として Aida と書くが、普通の場合は小文字で書く。 aida だけで副詞接續詞になるのは、時の「あいだ」 (§ 144)。

Amehuri no aida dekimasen.

Hon no aida kara hikidasu.

Yasumi no aidano Sigoto.

Yasumi no aidani siraberu.

sono aida (ni), kono aida (ni). 「こないだ」と同じ

意味の「このあいだ」は一語として konoaida.

aikawarazu (副)

aitu (代) 小文字で書く。

「あいつは」を略して云ふ「あいつあ」は aitu 'a と書く。 (') は w のぬけたことを示す。

Aka (名) } 形容詞の akai, 副詞形 akaku, 名詞
aka[~]i (形) ([~]ku) } の Aka は普通であるが、其他
aka[~]no (形) ([~]ni) } akano (形)、akani (副) を認める。

akano Hata=akai Hata.

akani nuru=akaku nuru.

「あかの他人」は akano Tanin.

Akke (名)、akkenai (形)

akkenai Hanasi.

Akke ga (no) nai Hanasi.

Akke ni torareru.

akumade ([~]mo) (副)

watasi wa akumade hantai desu.

amari 1. (附名) 次のやうに前に来る数詞に添へて使ふのは附添ひ名詞 (§ 147 参照)。

ni En amari.

yottu amari no Kodomo.

hyakunin amari no Hito.

2. (名) Amari ga ikura aru? のやうな場合。

3. (副) ([~]ni, [~]no) anmari と云ふ。

amari takai.

amarini ibari-tirasu.

amarino Koto.

anbai^{na} (形) (〓ni, | de) 「工合」と同じやうな意味で前に補ひの形容詞(句節)が来る場合 (§207)。

yoi anbaina Kikô.

yoi anbaini Ma ni aimasita.

「あんばい」が「様子、味」の意味ならば、名詞で、大文字で書く。

Suimono no Anbai ga yoi.

anna (形) = *anoyôna.*

anna hûni, anna yôni.

annani (副) = *anoyôni.*

ano (形) 指して云ふ意味の形容詞。

ano Hito (指して云ふ) *wa watasi yorimo Sei ga takai.*

are no と同じ意味の *ano* は成るべく *are no* と書くがよい (§293)。

ano naka kara = are no naka kara.

ano nakani = are no nakani.

anohito, anokata (代) 指して云ふのでなく、只前に出た人の代りになる場合。

Oota Kun wa.....; anohito no Otôsan wa.....

anohito, anokata と書いてよいことが明でない場合

には *ano Hito, ano Kata* と離して書くがよい。

anoko, anootoko, anoonna は *anohito* と同様であるが、多くは *ano Ko, ano Otoko, ano Onna* と離して書く方にしてよい。

anotôri (副) (〓ni, 〓na) *are no tôri* の意味で云ふのは一つづけに書く。

ano Tôrimiti の意味ならば無論 *ano Tôri.*

anoyô^{na} (形) (〓ni, | de)

anotoki (副) (〓ni)

Ao (名)

aoⁱ (形) (〓ku)

ao^{no} (形) (〓ni)

形容詞の *aoi*, 副詞形 *aoku*, 名詞 *Ao* は普通であるが、外に *aono* (形)、*aoni* (副) を認める。

aono Hata = aoi Hata.

aoni nuru = aoku nuru.

are (代)

arebakari (*areppakari*) (副) (〓no) = *arehodo* の場合。

aredake (副) (〓no) = *arehodo* の場合。

aregiri (*arekkiri*) (副) (〓no) = *are wo Osimai to site* の場合。(giri の條参照)

aregurai (副) (〓ni, 〓no) = *arehodo* の場合。

arehodo (副) (〓no)

bakari, dake, giri が「のみ」の意味、*gurai* が「他は兎に角、あれ位」の意味で何れもそれを省いても文の脈が通るときには前を離す (§246)。

are bakari wa yurusite kudasai!

are dake wa ageraremasen.

are giri nara agemasyô.

[aregiri nara agemasyô でもよい、(「あれが Osimai なら」の意味)]。

are gurai wa yoi desyô.

arerano (形) korerano sorerano ほど普通ではないが、arerano Hon は、Hon を指して云ふ詞で、本が一つなら、ano Hon と云ふべき場合。arera no Hon と no の前を離せば、「彼等の本」即ち arerano Hito no Hon と云ふ意味になる。

aru (形) 「ある處」「ある人」などの aru. 動詞の「ある」(有る、在る)と紛れる虞がある場合には、「ある處、ある人」のやうな「ある」を aru と書く。

aruhi, arutoki (副) だけはつゞけて書く。

Asa (名) 副詞として使ふ場合でも、大文字の方がよい (§ 218)。

watasi ga Asa mairimasita tokini,

asatte (副) 小文字で書く。

asita, asu (副) 小文字で書く (§ 218)。

asobasu (助動) 前に動詞が来るときにも間を離す (§ 186)。

o-kaki asobasu, go-benkyô asobasu.

asuko, asukora, asukoira (代)

asukora atari, asukoira hen.

atari (附名) 名詞へすぐつゞく場合でも、さうでない場合でも、小文字で書く (§ 147)。

kokora atari. sokora atari ni.

Ueno atari. Amerika atari no.

Sekidô no atari, kono atari, Umi ni tikai atari.

Atari ni Ki wo tuke nasai! では Atari は普通の名詞である。

Ate (名)

ate[~]no (形) ([~]ni)

Ate ga hadureru.

Ate ni suru.

watasi ateno Tegami.

anata ateni dasita Tegami.

atira, atti (代)

atirano, attino (形)

atirano Heya wa atui ga, kotirano Heya wa suzusii.

物を直接に指して云ふ場合ならば形容詞で atirano と書くが、「あちら」と云ふ場處や品物が別にある時には no を離す。

atira no Atusa wa betudan desu.

ato (副) ([~]ni, [~]no, | de) 「何々した後」のやうな意味の

ato は副詞。

byôkisita ato, kô narimasita.

kaetta ato de. atono Hanasi.

「遺跡」「跡目」などの意味なれば名詞で Ato.

Siro no Ato. Ato wo tugu.

ayatu (代) = aitu.

B

ba (動尾) 動詞や形容詞の語尾として、前へつける (§182)。

akeba, naraba, yokereba.

「をば」は別で、動詞の語尾ではないが、一つの関係詞として一つづけに woba と書く。

Baai (名) 副詞として使はれることもあるけれども、大抵の場合に大文字でよい。

Amehuri no Baai niwa,

watasi ga kô sita Baai (ni), anata wa dô nasaru?

yondokoronai Baai desita kara,

bai (助数) (no).

hyakubaino Hiyô wo kaketa.

sanbai ni suru.

前に数のつかない「倍にする」だけは ni を離さないで、baini suru としてよいと思はれる。

Baka (名), baka^{na} (形) (ni, | de) (§216)。

hizyôni bakana Otoko.

hizyôni bakani naru.

hizyôna Baka ni (to) naru.

hizyôni baka desu.

hizyôna Baka desu.

hizyôna Baka na n' desu kara.

bakari (bakasi, bakkasi) 1. (副) (ni, na, no) 「ほど」

と同様な意味の場合。

miageru bakari (bakarini) ôkii Yama.

miageru bakarina (bakarino) Hito.

tô bakarina (bakarino) Kodomo.

korebakari, koreppakari (=korehodo), sorebakari

(=sorehodo), sukosibakari, syôsyôbakari 等はつける。

[尤も「少しばかり」「少々ばかり」は bakari の前を離してもよい。]

「ばかりに」を「ばかり」と云ひかへられないのは ni を離す。

tô bakari ni simasyô.

2. (廣) (wa, mo, na) 「のみ」と同様な意味の場合。

sita bakari mite iru.

Byôki ni bakari kakatte iru.

wa と mo は、ga 又は wo に變へられる場合 (bakari の前に名詞の性質の文句がある場合) には離す。其他はつける (§247 参照)。

Byôki bakari wa kowai.

Byôki ni bakariwa kakaritaku nai.

「ばかりの」は「ばかりな」と云ひかへられるのは形容詞で、no をつける。其他は離す。

Isi bakarino (bakarina) Kawa.

okureta bakari no tameni.

˘ban, ˘banme (數尾)

itiban, itibanme (名詞狀に使ふとき)。

但し、特別な物の名前のやうに使ふ場合には大文字で Itiban, Itibanme とする方がよい。

itibanno, itibanmeno (形容詞に使ふとき)

itibanni, itibanmeni (副詞に使ふとき)

-banti (名組)

Akebonotyô Zyûiti-banti.

但し、通常は番地の前の數を數字で書く。

Akebonotyô 11 banti.

略して書くときには bt. と書く。

11 bt. 1234 bt.

「番地が分らない」では大文字で、

Banti ga wakaranai.

「東京市本郷區駒込曙町十一番地」は

Tôkyô-si Hongô-ku Komagome Akebonotyô 11 bt.

˘beki, ˘beku (動尾) (§ 281, 282).

yomubeki Hon, kenkyûsubeki Mondai.

「讀むべく」「研究すべく」も同様に一つだけを書く。尤も、この言ひ方は口語文にはふさはしくない。

yomu tameni, yomô to, yomu yôni

などと言ひかへるがよい。

Binbô (名)、binbô˘na (形) (˘ni, | de) (§ 216).

hizyôna Binbô wo sita.

hizyôni binbôna Otoko.

hizyôni binbôni narimasita.

hizyôni binbô desita.

˘bun (數組) 1. 「いくつ分」「何人分」などは

mittu-*bun*. hyakunin-*bun*.

2. 分數を表すのは次の例に従ふ。

sanbunno iti. 125-bunno 78.

˘buru (動組) gôketuburu などのやうに普通なのは一つの

動詞として一つだけを書く。併し臨時に組立てたの、

特に前の文句の長いのは buru の前を離す方がよい。

nippon-itino Gôketu butte.

Busyô (名)、busyô˘na (形) (˘ni, | de) (§ 216).

sonna Busyô wo suru ka?

hizyôni busyôna Otoko.

hizyôni busyôni naru.

Byôki (名)、byôki˘na (形) (˘ni, | de). (§ 216)

byôkina Hito.

hidoku byôkini naru.

Haibyô no Hito (haibyôna Hito).
 omoi Byôki ni naru. (Haibyô ni naru).
 Hai no Byôki ni naru. Byôki ni kakaru.

D

da (動) =de aru. 指定の動詞と形容詞の動詞形と二つある。

Inu wa Dôbutu *da*. (指定の動詞)

kono Hana wa *kirei da*. (形容詞の動詞形)

dato 語尾變化として to をつづけるのは、不定條件の現在の形で (§ 181)、

asu Tenki *dato*, Tabi ni derareru.

などの場合である。

引用の to は前を離す。

asu wa Tenki da to iu koto desu.

daga (接) } 文章の初に置く接續詞。
 dakara (接) }

• *daga*, kôiu Koto mo aru.

dakara, watasi wa kô iu no desu.

文章の終りに来る「だが」「だから」は、da が普通の動詞(又は形容詞の動詞形)の da である場合で、それは da ga, da kara と書く。

sore wa sô *da ga*,

kore ga kô *da kara*,

˘da (動尾) 動詞の過去の語尾の da はつける。
 yonda, toida, sinda.

dai (呼) 問ひの呼かけ詞。

Sore wa nan' *dai*?

dai˘ (數頭)

daiiti, daiitiban, daiitibanme. (名詞形)

但し特別なきまつたものを表はすときには大文字にする、雑誌の Daiitigô など (§ 238)。

daiitino, daiitibanno. (形容詞形)

daiiti, daiitini, daiitibanni. (副詞形)

daibubun (附名、副) (˘no) 名詞状に使ふ場合も小文字。

Mondai no *daibubun* wa kaiketusa.

dake 1. (副) (˘ni, ˘na, ˘no) 「ほど」又は「ほどあつて」の意味の場合。

issyaku *dake* nagai.

gakumonsita *dakeni* Wake ga wakarui.

mi ni yuku *dakeno* Neuti.

issyaku *dakeno* Tigai.

aredake, koredake, soredake, doredake は各一語とする。

「だけに」を「だけ」と云ひかへられないのは ni を離す。

issyaku *dake ni* tukuru.

2. (廣) (wa, na, no) nomi の意味の場合。

watasi *dake* mairimasu.

Kyôto e *dake* mairimasu.

「だけは」は、「だけが」又は「だけを」となる場合には、*dake wa* と離し、他の場合にはつける。

Byôki *dake wa* iya da. (166 頁脚註を見い)

Byôki ni *dakewa* kakaritaku nai.

「だけの」は「だけな」と云ひかへられるのは、「の」をつけ、其他は離す。

katai *dakeno* (*dakena*) Ningen.

Imi *dake no* Tigai.

*dame*na (形) (ni, | de)

sore wa *dame* desu.

damena Otoko.

are wa *dameni* natta.

dano (廣)

Tora *dano* Sisi *dano* imasita.

Kyôto kara *dano* Kyûsyû kara *dano* Hito ga atumarimasita.

「……だの……だのと……」と、あとに「と」の来るのは、「何の何のと……」の言ひ方 (no の 3 参照) であるから、*da no* と離す。[「……だことの……だことのと……」とも云へる。]

Sake *da no* Biiru *da no* to sawaida.

*darake*na (形組) (ni, | de) 一つの語と感ぜられるやうな出来上つた語は前へつゞけて書く。

dorodarakena Asi.

併し、臨時に出来た語や、長い文句の次に来る「だらけ」は離した方がよい。

Kimono wo Mesitubu darakeni suru.

Kogatana no Kizu darakena Tukue.

dare (代)

ka につゞく場合のうちには *dareka* とつけて書いてもよい感じのする場合もあるけれども、離す方がよいとする。

sore wa *dare ka*?

dare ka oide!

dare ka ga kita.

dare ka ni kike!

darô 1. (動) 指定の動詞と形容詞の動詞形。

are wa Katô *darô*.

sore wa kirei *darô*.

2. (助動) 前で語が切れる場合は

kaku *darô*. kaita *darô*.

yoi *darô*. yokatta *darô*.

3. (動尾) *sundarô* (済んだらう) のやうに、過去の形が *da* で終るのに *rô* が加つたのは、前へつける。

sundarô. *tondarô*. *sindarô*.

datte (接、廣) 本來は da tte (tte を見い) とすべきだけれども、固まつた語と見て一つに書く。

datte, sôwa dekinai n' desu mono! (接續詞)

Tora datte Sisi datte Ningen niwa kanaimasen.

(廣さ詞)

但し、「だと云ふ」「だと申す」の意味で云ふのは da tte と離す。

sore wa Uso da tte môsimasita.

De (名) Iri (入) に對する「出」は名詞。

de (關) 次のやうな使ひ途では前を離す (§ 159)。

Gakkô de narau. Katana de kiru.

Oya no Okage de.

kimi to boku to de siyô.

次のやうな使ひ途は普通の關係詞と違ふけれども、書き方に差はない。

honno Kodomo de aru. (arimasu, gozaimasu).

honno Kodomo de komarimasu.

atataka de aru. rippa de atta.

kore de takusan. itiniti de dekiru.

desu, desita, desyô, desitarô, desitari, desitara, desite は

de の次をつけて、前を離す。

demo, deno, dewa (そこを見い)。

de 前へつける de にはいろいろある。

接續詞の sokode, sorede, tokorode, node.

動詞の語尾の yonde, yomanaide, yomimasende.

副詞の marude.

名詞の Yomide, Tabede, Arukide など。

de 「何々出身」の意味の de は deno を見い。

dekiru (助動) 普通の動詞の外、次のやうな形式を認める。

kandyô dekiru = kandyôsuru koto ga dekiru.

dekirudake (副) (no) 「誰に出来る」「何で出来る」などのやうな連絡の語が前になくて獨立して使ふときは一つだけを書く。

watashi ni dekirudake ôkii no wo kudasai!

(私に下さいの意)。

watashi ni dekiru dakeno Koto wo simasyô.

(私のなし得るだけの意)。

demo 1. (關) 關係詞の de へ廣さ詞の mo の加はつたもの。

Uti demo benkyôsuru.

Yu demo Midu demo araeru.

2. (廣)

anohito ni demo sase nasai!

Yu de demo Midu de demo araeru.

3. この外、動詞の語尾の de へ mo のついたのものもある (§ 247)。これは無論前へつける。

kundemo, kaidemo, sinaidemo.

Denka (名) 皇族方に添へる尊稱の「殿下」は其前を離す。

Kôtai Denka. Kôtai Hi Denka.

Arisugawa-no-miya Denka.

Arisugawa-no-miya Takehito-sinnô Hi Yasuko
Denka.

deno (=に於ける) 関係詞 de の形容詞形。

Gakkô deno Dekigoto.

de^{no} (出の) (形組) (| de).

gakkôdeno Hitotati.

onazi-gakkô-deno Hitotati.

Tôkyô-Teikoku-Daigaku-deno Hitotati.

「何々出」は名詞としても使はれる。

koko niwa Daigaku-de ga ôzei iru.

「私は何々出です」の「何々出です」は形容詞の動詞形と見ても、名詞へ指定の動詞の添うたものと見ても、どちらでもよい。

desita, desitara, desitari, desitarô.

kirei desita (ra, ri, rô).

desu, desuto (to を見い)

kirei desu (to).

desuga, desukara (接)、文の初にある場合。

(daga, dakara を見い)。

desyô 1. (動) desu の推定形。形容詞の動詞形にも使ふ。

are wa Kuma desyô.

2. (助動) 前に切れる形の文句が来る場合。

kaku desyô, kaita desyô.

yoi desyô, yokatta desyô.

dewa 1. (關) 関係詞の de へ wa の添うたもの。

kore dewa dekinai.

2. (廣)

koko kara dewa mienai.

3. この外動詞の語尾の de へ wa のついたものもある

(§247)。これは前へつける。

tunaidewa, kandewa, sinaidewa.

4. (接) 文章の始めに、soredewa の代りに使はれるのは
接續詞。

dewa, kô simasyô.

diki (副) (ni, no)

diki kimasu, dikini kimasu.

dikino Otôto. diki Kinzyo.

dikidiki (副) (ni, no)

dikidikini môsiagemasu.

dikidikino Ohanasi.

doitu (代) aitu, koitu 同じやうな云ひ方のもの、小文字
で書く。

doitu mo koitu mo.

doko (代) 次に ka の來るのも離なして書く。

doko no Kuni, doko no Sekai.

sore wa doko ka?

doko ka ni iru.

dokora, dokoira (代)

dokora atari. dokoira hen.

dokomademo (副) 「あくまで」の意味の場合。

場處の意味の「どこ」へ「までも」の付いたのは
doko mademo と間を離す。

doko[~]no, dokoro[~]no (| de) (形)

sore dokono (dokorono) Sawagi dewa nai.

sore doko (dokoro) dewa arimasen.

[~]domo 1. (名尾、代尾)

Keraidomo. watasidomo.

hutugôna Kotodomo de aru.

2. 外に keredomo (接) の語尾の domo もある。

Don (名尾) Dono を見い。

donna (形) ([~]ni, | de).

donna Deki. donnani dekiru.

Deki wa donna desu ka?

donna kano Sigoto wo site iru.

Dono, Don (名尾) 普通の場合、普通名詞にはつけ、固有名詞には離す (§ 150 参照)。

Osandon. Mukodono.

Kikuti Dono. O-Ume Don.

普通名詞でも、軍隊で云ふ「少尉殿」「大尉殿」のやうなのは、多く前に姓を添へて云ふ (又は姓を添へな

くても添へたと同様な心持で云ふ) から、矢張離して
Dono とする。他の稱號の類も同様。

Taii Dono. Itô Igakuhakusi Dono.

dono (形) 指す意味で問ふもの。

dono Hito. dono Ie.

donoyô[~]na (形) ([~]ni)

donoyôna Yôzi.

donoyôni narimasita ka?

donomiti (副)

dô (副) 次に ka の來るのも、間を離す。

dô ka site. dô ka kô ka.

dô nika site. dô nika kô nika.

dô toka site. . .

dôka とつゞけるのは dôzo (何卒) の意味の場合。

dôitta, dôiu, dôsita (形) donna の意味の場合にはこの
やうにつけて書く。

donoyôni itta, donoyôni iu, donoyôni sita の意味なれば
dô itta, dô iu, dô sita と離す。

dôsite (副) ([~]mo) [dôsite, dôsitemo を見い。]

sore ga dôsite dekiru monoka?

dô sita tte ([~]mo), dô ittemo, dô attemo などは離す。

dôri (副) ([~]ni, [~]no) 「ぐらゐ」「そのまま」の意味の場合
には前から離す。

kubu dôri dekiagatta.

ima made dôri (dôriini).

Obosimesi dôrino.

外に、名詞に、「道理」の Dôri, 「表通り、裏通り」の Omotedôri, Uradôri などのあるのはいふまでもない。

dôride (接) 名詞の Dôri に de の添うたものに相違ないけれども、次のやうに使ふのは出来上つた語として、小文字で一つづけに書く。

dôride, hen da to omotta.

dôsi (附名)

Kodomo dôsi no Asobi.

wakai Onna dôsi de,

dôsite (副) 「どう」と「して」との意味が別に感ぜられる場合(「どのやうにして」と同じ場合)には dô site と書くけれども、dôsite sô yuku monoka! などのやうに只一つの副詞の役目をする場合には一つづけに書く。

dôsitemo (副) dô sitemo と離して書くべき場合(上を見い)もあるが、「ぜひとも」と同じやうな意味で只一つの副詞と同じ役目をする場合には一つづけに書く。

dôsitemo yukanakereba narimasen.

dôyô (副) (ni, na, no)

watakusi dôyô gohiiki wo negaimasu.

watakusi to dôyôni (onaziyôni).

sore to dôyôna (onaziyôna) Sinamono.

dore (代) 次に ka の來るのも離す。

.....sita no wa dore ka?

dore ka wo ageyô.

doredake (副) (no)

doregurai (副) (no, na)

dorehodo (副) (no)

dotira, dotti (代) 次に「か」の來る場合でも離す。

dotira ka to ieba.

dotirano, dottino (形)

同じく「どちらの」でも、no を離すのは

dotira no = dotirano Hito (Mono) no の場合。

dotirano Okosan = 何人かある Okosan のうちのどちら。

dotira no Okosan = 何家の Okosan.

dotiramiti (副)

dukurino (形組)

koganedukurino Tati.

isidukurino Ie.

dutu (副) 前から離す。

mittu dutu. hitori dutu.

dya, dyâ da の變り詞又は dewa のつまつたもので、いろいろな場合がある、そこを見い。

soredya (接) = soredewa.

dyû (名組) 名詞に使はれる場合は勿論、副詞に使はれる場合にも大文字にする。

Sekaidyû (名詞) *ga*.....

Iedyû (副詞に使はれた名詞) *Oosawagi wo simasita.*

長い句へついたのは、その終りの語へ、つなぎを挿んでつづける。

Osiro no naka-dyû.....

E

e (關) (wa, mo, no)

Tôkyô e yuku.

Oosaka ewa yuku ga,

Kyôto emo yuku.

Tôkyô eno Kaerimiti.

En (助數) 金高の「圓」は大文字で En (§227)。

三圓五十錢=*san En gozissen=3 En 50-sen.*

yen と外國語風のローマ字流で書くのではない。

eru 1. (動) 普通の動詞「得る」。

2. (助動) 前に来る動詞との間を離す。

kaki enai. sinbôsi eru.

G

ga 1. (關)

Inu ga hoeru.

Kuni to Kuni to ga arasou.

iwanu ga Hana da.

Midu ga nomitai.

普通の使ひ途と違ふ *ga* のうちで、次のやうな *ga* は *no* に改める方がよい。

100 En ga Neuti wa aru.

sore ga tameni.

次の *ga* は省いて差支ない。

aru ga uenimo hosigaru.

no の意味の *ga* でも次のやうな固有名詞や熟語になつて居るのは、そのまま一つづけに書く。

Sekigahara, Asamagatake, Wagakuni, mangaiti, zyû-ga-hitotu, nen-ga-nendyû.

2. (接)

Haru ni natta ga, mada samui.

itte mita ga, nakanaka omosiroi.

外に特別な使ひ途は

dare ga nan' to iô ga, watasi wa.....

watasi ga yukô ga yukumai ga, anata ni Kwankei wa nai.

3. (呼)

kono Tawakeme ga!

yoku mieru darô ga!

ga *daga, desuga* などは、文の初めに來るときには、接

續詞として一つづけに書く。

tokoroga も一つの接續詞。

˘gakatta (形組)

midorigakatta.

˘gake (名組)

watasi no Degake ni,

Gakkô e (eno) Yukigake ni,

Gakusi, ˘gakusi (名) 「法學士」「水産學士」等は Hôgaku-si, Suisangakusi などと書く。

略字の案としては、Hg. (法)、Ig. (醫)、Yg. (藥)、Kg. (工)、Bg. (文)、Rg. (理)、Ng. (農)、Rng. (林)、Zg. (獸醫)、Sg. (水産)、Kzg. (經濟)、Syg. (商)。

˘gamasii (形組)

haregamasii. okogamasii.

˘gara (名組) 時に關するのは副詞にも使はれる。

Simagara. Hitogara.

isogasii Zisetugara, tegaruni simasyô.

˘garu (動組) 出來上つた語と見るべきものはつづけて書く。

sabisigaru, iyagaru, zannengaruru.

名詞に添へて臨時に組立てたのは garu の前を離す方がよい。

Tûzin garu.

nippon'itino Kôdansi garu.

gata (副) 「分」又は「ほど」のやうな意味のもの。
sore wo ni En gata tyôdai! itiwari gata.

˘gata (名尾、代尾) 二人以上を示す語尾。

Kihuzingata, anagata.

˘gatai (形組) = ˘nikui

sakegatai, manukaregatai.

gatera (副) (˘ni, ˘no)

Sanpo gatera.

Hanami gaterani sanposiyô.

Hana wo mi gaterano Sanpo.

˘gati˘na (形組) (˘ni, | de)

arigatina Hanasi.

Ayamari wo tutae-gatina mono.

˘ge˘na (形組) (˘ni, | de)

nikugena Kao. nikugeni mieru.

Sake wo nomitage desu.

giri 1. (副) (˘no, ˘ni) 「……が Osimai でそれぎり」の意味の場合。

dete itta giri (kiri) konai.

anotoki girino Hanasi.

aregiri (˘ni), koregiri (˘ni), soregiri (˘ni) はつける。

aregirini suru.

2. (廣) 「のみ」の意味の場合。

anata giri ni agemasu.

go[~] (組)

Goryôsin, Gosetumei (名詞)
 sore wo gosetumei (動詞) môsimasyô.
 gosinsetuna, gosinsetuni (形、副)

-go (副組)

asamesi-go yarimasu.
 siken-go no Ryokô.
 Tôkyô wo syuppatu-go ni.....

かういふ言ひ方は成るべく、もつと正式な日本文にかへる方がよい。

Asamesi no atode.
 Siken no notino Ryokô.
 Tôkyô wo syuppatusita notini.

Gokigen (名) } 「御機嫌」は一般には名詞であるが、「御
 gokigen-yoku (副) } 機嫌よく」は一つの副詞と見る。

Gokigen wa ikaga? Gokigen wo sokoneru.
 gokigen-yoku iraseraremasite,

gomen (動) 動詞の名詞形、次を離して小文字で書く。

gomen kudasai!
 sôiu Koto wa gomen wo negaimasu.
 sôiu Koto wa gomen kômurimasu.

併し、前に形容詞性の文句があれば、全くの名詞だから、大文字で書く。

minasan no Gomen wo kômurimasite.

Gô (助数) §238 参照。

Daiitigô. Dai 1 Gô. kono Gô.
 Hôkoku no daiitigô.

goran (動) 動詞の名詞形、此形だけで使はれる。又全くの名詞としても使はれる。

kore wo goran kudasai!
 kore wo goran wo negaimasu.

前に形容詞性の文句があれば、名詞だから大文字で書く。

minasan no Goran wo negaimasu.

goro (副)

Nanzi goro, Nanniti goro.
 但し konogoro, sakigoro 等はつづける。

~gosi[~]no (形) (~ni, | de)

sannengosino Mondai.
 mô sannengosini naru.
 mô sannengosi desu.

goto (副) =gurumi.

Hurosiki goto torareta.

goto[~]ki (形) (~ku) 成るべく「など」「やうな」「やうに」「やうで」の言ひ方にするがよい (§279, 280)。

Yuki no gotoki (gotoku)=Yuki no yôna (yôni, yô de). Doitu no gotoki wa=Doitu nado wa.
 「かくの如き(く)」は kakunogoto[~]ki (~ku) と一つ

づけに書くが、成るべく *konoyô* na (ni) とするがよい。

gotoni (副)

hitori gotoni, itinen gotoni, suru gotoni.

guai na (形) (ni, | de) 前に補ひの形容の文句が来る場合。

yoi guaina Tenkitugô.

yoi guaini Ma ni atta.

但し獨立に使はれるときには、「工合」は名詞。

Sigoto no Guai ga yoi.

gurai 1. (副) (ni, na, no, wa, mo) 「ほど」と同様な意味の場合。

miageru gurai (guraini) ôkii Yama.

miageru guraina (guraino) Yama.

issyaku gurai (guraiwa, guraimo) arimasyô.

「ぐらいに」は「ぐらい」と云ひかへられないときには *ni* を離す。

Tô gurai ni simasyô.

aregurai, koregurai, soregurai, doregurai, donogurai, tyûgurai はつける。

2. (廣) (wa, na) 「他は兎に角、何ぐらい」と云ふ意味の場合。

Sake gurai ni yotte,

kore guraina Koto de naitewa okasii.

「ぐらいは」は、*ga* 又は *wo* と云ひかへられるならば *wa* を離し、言ひかへられないならば、つける。

Sake gurai wa yokarô.

Biiru gurai wa nome!

Kuruma ni guraiwa nottemo yoi.

gurumi (副) = *goto*.

Hurosiki gurumi torareta.

gururi (附名) (no, ni) §145, 146 並に *ue* 1 の條を見い。

Ki no gururi wo mawaru.

gururino Ie.

Ie no gururini atumatta.

H

Hakusi, *hakusi* (名、名組) 「何學」が前にないならば

Hakusi, 「何學」があるならば全部つづけて書く。

略字を使ふときの案としては、*Hgh.* (法)、*Igh.* (醫)、

Ygh. (藥)、*Kgh.* (工)、*Bgh.* (文)、*Rgh.* (理)、*Ngh.* (農)、

Rngh. (林)、*Zgh.* (獸醫)、*Sgh.* (水産)、*Kzgh.* (經濟)。

han (數) 1. あとに助數詞のつくのは他の數同様にする。

hanmai, hanzikan.

2. 助數詞の後に添へるのや時刻の「一時半」などは、間を離す。

ippon han, zyûitimai han, Itizi han.

hanbun (副)

kore wa *hanbun* kusatte iru.「面白半分」「遊び半分」のやうなのは矢張副詞で
omosiro-hanbun (〱ni), asobi-hanbun (〱ni)

Haru (名) 副詞に使ふときにも大文字で書く。

kono Haru atira e yukimasita.

hazu (附名)

hito ga kuru *hasu* desu kara,sonna *hazu* ga nai.

Heika (名) Denka の書方と同様。そこを見い。

heikin (副) (〱no)

Gakusei no Tosi wa *heikin* nizyû-go desu.*heikinno* Sei-no-takasa ga 5 syaku 2 sun desu.

「平均が低い」などの「平均」は名詞で Heikin.

hen (附名) 前を離して小文字で書く。

Tôkyô hen, kokora hen.

Tôkyô no hen, Ueno ni tikai hen.

hidari (附名) (〱no, 〱ni) § 145, 146 並に ue 1 の條を見

い。

Hiru (名) 副詞に使ふときにも大文字で書く。

kinô no Hiru nete imasitara,

Hiruhinaka, 上と同様。

hisasiikoto (副)

hisasiikoto Ome ni kakarimasen.Hito (名) 「他人」の意味の「ひと」は、不定代名詞と見
hito (代) して小文字で書く (§ 157 a).kotowarinaku *hito* no Mono wo toruna!「人間」の意味の「ひと」は無論名詞で Hito と書く。
hito とすべきことの明でない場合には Hito としてよ
い。「男」「女」「掛り」等と同じ意味をむきだしてなく云
ふ云ひ方の「男の人」「女の人」「掛りの人」は

otokono Hito 又は Otoko-no-hito.

onnano Hito 又は Onna-no-hito.

kakarino Hito 又は Kakari-no-hito.

〱hito 「あの人、この人、その人」は、「あの、この、その」
と指して云ふ意味がなくて、只前に記した人を意味す
る時には、代名詞として

anohito, konohito, sonohito

とする。

K. Kun wa.....; anohito no Otôsan wa.....

判りにくい時には ano Hito, kono Hito, sono Hito
としてよい。hito- (數) 次のやうなのは、普通名詞にも添へるけれども、
主として副詞的に使ふから、小文字で書く。*hito-rikutu* aru Hanasi.*hito-kuse* aru Otoko.*hito-hataraki* hatarakimasyô.

hito-sinpai negaimasu.

hito-hunpatu sinakereba naranai.

hitome (副) (〱ni) 「一目」は副詞。

hitome mite wakaru.

Mati ga hitomeni miwataseru.

「人目」は名詞で、Hitome.

hitotu (形) 次のやうなのは、「同じ」 (§ 215) と同様な見
様から形容詞とする。

hitotu Omoi de.

hitotu Ie ni sunde iru.

數詞の hitotu は別。

hodo (副) (〱ni, 〱wa, 〱niwa, 〱no)

sonna Koto wo suru hodo (hodoni) baka dewa nai.

sonna Koto wo suru hodono Baka dewa nai.

「ほどに」を「ほど」と言ひかへられる場合には
hodoni と ni をつけ、「ほど」と言ひかへられないとき
には、hodo ni と離す。

50-sen hodo ni makemasyô.

arehodo, korehodo. sorehodo, dorehodo は一つづけ
に書く。

hoka 1. (副) (〱wa, 〱ni, 〱niwa)

.....suru hoka (hokani) Sikata ga nai.

*.....no hoka (hokawa, hokani, hokaniwa) nani mo
nai.*

2. (附名)

Nippon no hoka kara Sirase ga kuru.

3. (廣)

Hon wa kore hoka nai.

Hô (名) 「方法」「道理」の意味の「法」は Hô と書く。併し
これ等は成るべく紛れない詞に言ひかへるがよい。

umai Hô ga aru. (Hôhō, Sikata の方がよい)。

sôiu Hô wa nai. (Dôri, Rikutu の方がよい)。

「類」は Hoppe, Hoppeta の外に適當な言ひかへ方
がないやうであるから、それがあかしの場合には Hô
又は Hoo と書くより外に仕方がない。

hō (代、附名) 「いくつかあるうちのどれ」といふ意味の
「方」は不定代名詞、「部分」「方面」「方向」の意味に使
はれる「方」は附添名詞と見て、何れも hō と書く。
但し「方面」「方向」の意味ならば成べく Hōmen, Hōkō
と云ふ方がよい。

sono hō. ôkina hō.

watasi no katte kita hō.

kono Moti wa nakano hō ga mada katai.

〱hō. 「この方」「その方」が「自分」「おまへ」の意味な
らば代名詞で、一つづけに書く。

konohō, sonohō.

hōno (形) 同じく「方の」と云つても、形容詞であるの
と代名詞に關係詞 no の添うたのと二つある。前の方

は *hōno*, 後の方は *hō no* と書く。

yoi hōno Kimono wo kite yukō.

yoi hō no Nedan wa ikura ka?

後の方では *Nedan* の外に *yoi hō* と云ふ品物があるので、*hō* は代名詞であるが、前の方では、*Kimono* の外に *yoi hō* といふ品物があるのでなくて、*yoi hōno* は自分の思つて居る *Kimono* の性質を示す形容詞である。

hōbō (副) 名詞のやうに使ふ場合にも小文字で書く。

atira dewa hōbō kenbutusimasita.

hōbō ni Hayasi ga arimasu.

Hukin (名、附名) 名詞に直に添へて使ふのは附添ひ名詞として小文字で書く。さうでないのは大文字で書く。

Ueno hukin dewa

Ueno no Hukin dewa

kono Hukin wa

hūna (形) (*ni*, *de*) 「このやうな」と同様な「かういふ風な」などの「風な」は小文字で書く。

kōiu hūna. kōiu hūni.

kōiu hū dewa.

「風體」の意味の「風」は名詞で *Hū*.

sonna Hū dewa Hitomae e derarenai.

I

ika (附名) 前から離して小文字にする。

Tosi zyūni ika wa

Hanninkwan ika wa

Tosi zyūni ika no Kodomo.

gonin ika no Ninzu.

ikani (副) 「いかに大きいか」などは *donnani ōkii ka* としての方がすなほな口語としてよい。

ikanimo は普通の副詞。

kore wa ikanimo ōkii.

ikuraka (副) (*no*) 「多少」の意味のものは一つづけに書く。「いくらであるか」の意味なればはなす。

ikuraka yoi hō desu.

ikurakano Tegara ga aru.

sore [no Nedan] wa ikura ka?

ima (副)

ima kara. ima no utini.

「今」が「今の時代」と云ふやうな意味であれば、名詞と見て大文字で書くのもよい。又 *imano* (又は *imana no*) *Kimono*, *mukasino* (又は *mukasi no*) *Kimono* などでは *no* をつけて形容詞にしてもよい。

imamade (副) 「これまで」と同じ意味に纏まつたのは一つづけに書く。

imani (副) 「今だに」又は「も少しすれば」の意味の場合には、ni をつける。

ippai 1. (副) (〱ni, 〱no)

Kusa ga ippai (ippaini) haete iru.

次の文句では Niwa を ippaini, ippaino の補ひ語と見る。

Niwa ippaini haete iru.

Niwa ippaino Kusa.

2. (數) (〱no)

Mesi ippai, ippaino Midu.

ippan (附名)

Seken *ippan* kara mireba, *.....

Seken *ippan* ni sinzerareru.

ippan 〱no (形) (〱ni, | de)

ippanno Arisama.

ippanni ieba.

kôiu no ga *ippan* da.

「一般國民が.....」などは *ippanno* Kokumin とする方がよい。

ippô (代) (〱no) hô と同じく代名詞とする。

ippô wo agereba, *ippô* ga sagaru.

ippô no Taisyô.

ippôno Hazi wo tukamaeru.

ippôno Hazi は「どの端か」を示す云ひ方だから、「一

方の」は形容詞で、no が前へつく。ippô no Hazi と書けば、棒なら棒が二本あるうち一方のものの端の意味で、ippô は「一方のもの」を意味する代名詞、従て no が離れる。

irai (副)

Meidi 42 nen *irai*. are *irai*.

Nippon e kaette *irai*.

〱iro (名組)

〱iro 〱na (形) (〱no, 〱ni)

例へば鶯色に就て云へば、

Tobiïro, tobiïrona (tobiïrono), tobiïroni.

tobiïrono, tobiïroni と no, ni を前へつけるのは「白い、白く」と云ひ換へられる場合である。さう云ひかへられない場合には名詞と関係詞の no, ni とに離して書く。

tobiïrona Yôhuku (siroi Yôhuku と云へる)。

tobiïroni nuru (siroku nuru と云へる)。

Tobiïro no kawarini Aka wo..... (Siro no kawarini Aka wo..... と云ふ)。

Tobiïro ni kagiru (Siro ni kagiru と云ふ)。

iru (動) 「何々して居る」は iru を離して書く。

kaite iru, benkyôsite iru.

間をつめるのは、

kaite 'ru, benkyôsite 'ru.

issyo 〱no (形) (〱ni, | de)

anohito to *issyono* Kumi desita.

anohito to *issyoni* kimasita.

anohito to *issyô* desita.

Issyô (名)、*issyô* (副) (=Syôgai, *issyôgai*).

Issyô (=Syôgai) wo sasageru Sigoto.

anootoko wa *issyô* (*issyôgai*) Yakunin de owatta.

升目の「一升」は *issyô*.

issyô no Sake. (§ 241 参照)。

itasu (動、助動) 他の動詞の次に助動詞として使ふときにも、間を離す。

kôiu Asobi wo *itasimasyô*.

Eigo wo benkyô *itasimasu*.

sore wo o-hikiuke *itasimasyô*.

iti (數) 「一」のつく語のうちで、

(a) 「一枚」「一寸」等は、そのままよい。

itimai, *issun*.

(b) 「一邸宅」「一陸軍士官」等は次のやうに分けるがよい。

hitotuno Yasiki, *hitorino Rikugun-sikwan*.

(c) 「一」の全く不用な場合も多い。

「東南の一室に居る」=*higasi-minamino Heya ni iru*.

「一學生の身分で」=*Gakusei no Mibun de*.

他の文章を引用するなどで、是非「一邸宅」「一學生」

と云ひたいときには、*iti Teitaku*, *iti Gakusei* と書く。
itibubun (附名、副) (〱no) 名詞狀に使はれるのも小文字で書く。

Kwaiin no itibubun wa sore ni hantaisita.

sore wa itibubun Zizitu de aru.

itibubunno Hito wa.

itimen (副) (〱ni, 〱no)

Yama ga itimenni (itimen) Hana da.

次のやうな文句では *Yama* を *itimen* (〱ni, 〱no) の補ひ語と見る。又「何一面」が名詞狀に使はれることもある。

Yama itimen Hana da.

Yama itimenni Hana da.

Yama itimenno Hana da.

Yama itimen ga Hana da.

Yama itimen ni (又は *itimenni*) *Hana ga saita*.

itu (副) (〱mo)

itumo, *itu demo*.

itu no mani ka. (*mani* を見い)。

ituka (副) 「嘗て」の意味のものはつける。其他は *itu ka* と離す。

itumo (副)

izyô 1. (附名) 前を離して小文字にする。

Tosi zyûni izyô no Kodomo.

sennin izyô no Rôdôsyâ ga.....
Hanninkwan izyô.

2. (接) (wa)

kô natta izyô (izyôwa), Sikata ga nai.

K

ka 1. (呼)

kita ka? sore wa dare ka?

2. (接) 問の文章を他の文へつゞける。

Itu kita ka kikitai.

次のやうなものも此類とする。

Me (da) ka Hana (da) ka wakaranai.

3. (廣) 次のやうなのは廣さ詞。

anata ka watasi ka no Hon.

dare ka ni yaru.

doko kara ka kita.

itu ka yoku naru darô.

dore ka kudasai!

nani ka kure tamae!

ikutu ka agemasyô.

nanbon ka agemasyô.

donoyôni ka site.

donnani ka site.

doko ka e yaru.

kodomo- ka inakamono-zimite.

kano (形)

ikutu kano Mari.

nanbyakunin kano Hito.

ikuken kano Ie. donna kano Hon.

同じく「かの」でも、次のやうな場合には、no が
関係詞であるから、ka no と離す。

dare ka no Hon.

「多少の」の意味で云ふ「いくらかの」は初めからつ
づける(下の ^ka の中の ikuraka を見い)。

ikurakan, Honeori.

^ka

dôka=dôzo の場合。

ikuraka=「多少」の意味の場合。

「いくらか残つて居る」は ikuraka nokotte iru でも
ikura ka nokotte iru でもよい。

ituka=「嘗て」の意味の場合。

dô nika site. dô toka site.

日附や日数の ka も前へつづける (§ 232, 302 参照)。

ituka, tôka (日数); Ituka, Tôka (日附)。

monka, nanka, yorika はそこを見い。

-kabure (名)、-kabure^no (形) (^ni)

seiyô-kabureno Otoko.

taihen igirisu-kabureni natte kimasita.

次の文章では形容詞につづくから、「西洋かぶれ」は名詞。

taihenna Seiyô-kabure ni natta.

-kabure-suru (動)

seiyô-kabure-suru Otoko dewa nai.

seiyô-kabure nado suru Otoko dewa nai. (§ 249)

Kagen

˘kagen

1. (名) 普通の名詞

Kagen ga warui.

2. (名組)

Siokagen, Bakasa-kagen.

˘kagen˘na (形組) (˘ni) yoikagen˘na (˘ni) などの。

yoikagenna Koto wo iu.

yoikagenni sinai, ka!

kagiri (副、接) 次のやうな場合は小文字で書く。

Tikara no kagiri.

Tikara no tuduku kagiri,

但し Tikara ni Kagiri ga aru などでは名詞だから大文字にする(名詞であるないは § 141, 142 を見い)。

kai (呼)、kaina (呼) ka と同様に問ひの文章の終りに使ふ。

itte kita kai? sô kaina?

kamo (接) 接續詞の ka に mo のついた疑を表はすもの。

kô sitara yoi kamo sirenai.

但し「かさへ」と言ひかへられる「かも」は間を離す。

dô naru ka mo siranaide.

Kanemoti (名)、kanemoti˘na (形) (˘ni, | de) (§ 216).

taihen kanemotina Odisan.

taihen kanemotini naru.

taihen kanemoti desu.

taihenna Kanemoti desu.

kaneru (助動) 普通の動詞は別として、

kaki kaneru, benkyôsi kaneru.

等は、組合せ動詞の形であるけれども、特別な組立として間を離す。

kara 1. (關) (˘wa, ˘mo, ˘no)

Tôkyô kara (karawa, karamo).

Hyakusyô kara Daizin ni.

watasi kara hazimeru.

Kyôto karano Tayori.

korekara, sorekara はそこを見い。

2. (接)

Hana ga saita kara,

karawa, karaniwa (接)

.....sita karawa,

.....sita karaniwa,

Kata (名) 「何々のかた」「何々したかた」等の「かた」

˘kata (代) は名詞として大文字で書く。

Amerika no Kata.

dete korareta *Kata*.

「このかた」「あのかた」「そのかた」は、「この」「その」「あの」が指して示す意味で重いときには

kono Kata, sono Kata, ano Kata

と書くが、指す意味が軽いときは代名詞として

konokata, sonokata, anokata

と書く。

「男」「女」「掛り」と云ふ意味を、むきだしに云はない云ひ方の「男のかた」「女のかた」「掛りのかた」は

otokono Kata 又は *Otoko-no-kata.*

onnano Kata 又は *Onna-no-kata.*

kakarino Kata 又は *Kakari-no-kata.*

Kata (名組)

Kataasi. Kátate.

~kata (名組) 動詞の中止形へつける。

Kakikata, Benkyôsikata.

donnanimo Itasikata ga nai.

katahō (代) (*~no*)

katahō wo agereba, katahō ga sagaru.

katahōno Hazi wo tukamaeru.

katakata (代) (*~no*)

katakata wo agereba, katakata ga sagaru.

katakatanō Hazi wo tukamaeru.

katte (形) (*~ni*)

kattena *Iigusa.* *katteni kaku.*

zibun no katteni などは副詞 *katteni* に補ひの句のついたものと見る。併し *no* がなければ、

zibun-kattena 又は *zibun-gattena.*

zibun-katteni 又は *zibun-gatteni.*

kawa (接) *kamo* と同じ心持で疑を表はすもの。

kore de yoi kawa sirimasen ga, ……

但し「……か」といふ文句全體を受ける「は」は離す。

nani de tukurū ka wa sirimasen.

~ke (名組) 形容詞の語根につけて名詞を作る。

Samuke, Nemuke.

「何したつけ」の *ke* は *~takke* を見い。

kekwa (副、接) 次のやうな場合には副詞又は接續詞と見て小文字で書く。

Giron no kekwa, kô kimatta. (副)

Giron wo sita kekwa, …… (接)

但し、*Kekwa ga yoi* などでは全くの名詞で大文字で書く。(名詞であるないは § 141, 142 を見い)。

kekkyoku (副、接) 次のやうなのは副詞又は接續詞と見て小文字で書く。

are wa kekkyoku kô narimasita.

kekkyoku, kôiu Koto ni natta.

但し、*Danpan no Kekkyoku wo mite kara* などは全くの名詞だから大文字で書く(名詞であるないは

§ 141, 142 を見い。

Kenkô (名)、**kenkô**~na (形) (〓ni, | de) (§ 216).

Kenkô wo tamotu.

taihen kenkôna Karada.

taihen kenkôni mieru.

taihen kenkô desu.

〓kereba (形尾) 動詞形に使ふ形容詞の語尾。

yokereba, ôkikereba.

keredomo, keredo (接)

kaita keredomo, kakô keredomo,

yoi keredomo.

「よけれども」のやうな云ひ方は口語では使はない。

〓kerya (形尾) *kereba* のつまつた言ひ方。

Ki, Kiïro (名)

kiïro~i (形) (〓ku)

ki~na, **kiïro**~na (形) (〓no, 〓ni)

紛れないことから云へば。

Kiïro, kiïroi 又は *kiïrona, kiïroku* 又は *kiïroni*

がよい。尙 〓irona の條を見い。

kinô (副) 名詞のやうに使ふ場合にも大抵小文字で書く。

kinô kara. kinô yorimo.

Kinpen (名、附名) 名詞に直に添へて使ふのは附添ひ名詞として小文字で書く。さうでないのは大文字で書く。

Ueno kinpen dewa

Ueno no Kinpen dewa

kono Kinpen wa

kiri (廣) *sika* と同様な意味のもの。

warui no kiri arimasen.

ko (名組) 「小」又は「子」の意味のもの。

Kootoko. Koinu.

組合せた語が名詞でないものもある。

komatani aruku.

-ko (名組) 女の名の終りにつける「子」は次のやうに書く。

Hana-ko San. Oota-Ume-ko.

koïtu (代) 小文字で書く。

koko, kokora, kokoiru (代)

kokora atari, kokora hen.

Kokoromi (名)、**kokoromini** (副)

hazimetenô Kokoromi ni seikôsite.

kokoromini yatte miru.

konna (形) (〓ni, | de)

konna hûni, konna yôni.

konnani (副)

kono (形) 指して云ふ意味の形容詞。

“*kore no*”の意味には、成るべく *kore no* と書いて *kono* と書かないがよい (§ 293)。

kono nakani よりは *kore no nakani.*

kono naka kara よりは *kore no naka kara.*

- konoaida (副) konaida と同じ意味のもの。
 konogoro (副) は一語と見るけれども、kono Koro は二語と見る。
 konokata (副) 「以來」の意味。「十年この方」は zyūnen konokota.
 konotoki (副) (〱ni)
 konotōri (副) (〱ni, 〱no, | de)
 konoue (副) (〱mo)
 konoue dōmo dekinai.
 次に「ない」「なく」のついたのは
 konoue-naku. konouemo-naku.
 konoue-nai Saiwai. konouemo-nai Saiwai.
 konoyōna (形) (〱ni, | de).
 kō (副) = konoyōni.
 kōiu, kōitta, kōsita (形) konna の意味の場合には、このやうにつける。
 「かういふ」「かういつた」「かうした」が konoyōni iu, konoyōni itta, konoyōni sita の意味ならば
 kō iu, kō itta, kō sita
 と離す。
 Kō-Ikkyū, Kō-Nikyū,
 kore (代)
 korebakari (koreppakari) (副) (〱no) = korehodo の場合。
 koredake (副) (〱no) = korehodo の場合。

- koregiri (korekkiri) (副) (〱no) = kore wo Osimai to site の場合。
 koregurai (副) (〱no) = korehodo の場合。
 korehodo (副) (〱no)
 bakari, dake, giri が「のみ」の意味、gurai が「他は兎に角、これ位」の意味で、何れもそれを省いても文の脈が通るときは、kore の次を離す。
 kore bakari wa yurusite kudasai!
 kore dake wa ageraremasen.
 kore giri nara agemasyō. [koregiri nara agemasyō でもよい(「これが Osimai なら」の意味)].
 kore gurai wa yoi desyō.
 korekara, koremade, koremadeni (副) 時の「今から後」「今迄」の意味で單獨に使はれる場合。其他の場合は kore kara, kore made と離す。
 korekara Ki wo tukemasu.
 kore kara saki dô naru yara?
 koremadeni kaketa Hiyō.
 korera (代)
 korerano (形) 指して云ふ形容詞。
 korerano Seisitu. (性質を指して云ふ)。
 同じく「これ等の」でも、代名詞に關係詞のついたものもある。それは no を離す。
 korera no Seisitu = これ等のものの性質。

koro (副) 「頃」は、重い意味の場合には名詞として大文字で書くが、軽い意味で、「何々のとき、何々したとき」の「とき」と同じ程の心持の場合には、副詞として小文字で書く方がよい。中間の場合にはどちらでもよい。

Koro wo mihakaratte,

Isin no koro (Koro) no Hito.

*watasi ga Tôkyô ni ita koro, konna Koto ga
atta.*

koso (廣) (wa)

kotira de koso sutureisimasita.

kyô kosowa simasyô.

kotira, kotti (代)

kotirano, kottino (形)

物を直接に指して云ふ時には、形容詞で *kotirano*, *kottino* と書く。

*kottino Hon wa atarasii ga, sottino Hon wa
hurui.*

「こちらの家(處、人、物等)の」といふ意味ならば *no* を離す。

kotira no Samusa wa kakubetu desu.

Koto (名) 「事件」「ことがら」の意味が明かに感ぜられる
koto (代) ならば名詞として大文字で書くが、さうでないならば不定代名詞として小文字で書く。小文字で書く主な場合を調べると、大體次のやうな場合である。

(a) 代名詞の *no* と同じやうに、前の文句(動詞形の語で終つて居る文句)を名詞のやうにして次へ關係させる「こと」。

benkyôsuru koto ga taisetû da.

kimi no kaetta koto wo kiita node,

これは *koto* を *to iu koto* と云ひかへてもよい場合である。

(b) 軽い意味の「はなし」と云ひかへてもよい「こと」。

.....ga aru to iu koto desu.

(c) 「場合」の意味の「こと」。

Kandyô to tigau koto mo aru.

(d) その部分を省いて簡単にしてもよい場合。

yattono koto de=yatto. sundeno koto ni.

mukasi no koto desu kara=mukasi desu kara.

Koto と *koto* で文句は同じでも意味又は心持のちがふ場合を挙げると、

watasi ga môsiageta koto wa tasika desu.

は「申上げたに相違ない」の意味、

watasi ga môsiageta Koto wa tasika desu.

は「申上げた事件の内容に誤がない」の意味である。

kore to iu Koto mo naku Hi wo sugosite iru.

は「何事もなく」の心持、

kore to iu koto mo naku Hi wo sugosite iru

は「何となしに」の心持になる。

其他の例を挙げると、

aruhi no *koto*,

1900-nen no *koto* de aru,

{*sô kantaniwa yukanai koto* (=Baai) ga aru.

{*sô kantanniwa yukanai Koto* (=事件) mo aru.

この二つは意味が違ふ。

{*hosii Mono ga aru koto to nai koto to aru.*

{*aru Koto to nai Koto to mazete iu.*

Boro wo dasu yôna koto ni naru.

=*Boro wo dasu yôni naru.*

yukarenai to iu koto ni natta.

=*yukarenai to natta.*

aru ka nai ka to iu koto wo siru niwa.

=*aru ka nai ka wo siru niwa.*

{*uresii koto desyô* = *uresii desyô.*

{*uresii Koto wo kikimasita.*

{*tittomo uresii koto wa gozaimasen.*

=*tittomo uresikuwa gozaimasen.*

{*konna uresii Koto wa mettani gozaimasen.*

{*matomatta Kane no koto ni (to) naruto,*

=*matomatta Kane to naruto,*

{*Rômazi no Koto* (=Kotogara) wo *kangaete iru.*

要するに、「事件」「ことがら」の意味の明に感ぜられる場合の外は *koto* と書いてよい。

nagaikoto, *hisasiikoto* は各一つの副詞として一つづけに書く。

kottya koto da 又は *koto dewa* をつめた言ひ方。普通の文章には使はない方がよい。

kudasaru (助動) 普通の動詞 “*nani wo kudasaru*” などの外、助動詞の使ひ途にも、前を離す。

Goburei wo oyurusi kudasaru.

Zitugyô wo gosityôrei kudasaru.

annaisite kudasai!

Kun-Ittô, *Kun-Nitô*,

kundari (附名) *Kyûsyû kundari made*

kurai, *gurai* を見い。

anokurai (ゝ*na*), *konokurai* (ゝ*na*), *sonokurai* (ゝ*na*),

donokurai (ゝ*na*) 等はつける。

Kuro (名) 形容詞の *kuroi*, 副詞形 *kuroku*, 名

kuroi (形) 詞の *Kuro* は普通であるが、其他

kuro (形) (ゝ*ni*) *kurono* (形), *kuroni* (副) を認める。

Kwagaku は「化学」の意味ときめ、「科学」「科学的」は *Rigaku*, *rigakuteki* (ゝ*na* (ni, | de) とするがよい (§ 266)。

kyô (副) 名詞の使ひ途になつて居るのも小文字で書く。

kyô kara, *kyô madeno*.

M

Ma (名) *Ma ga warui*.

「間に合ふ」は、前に「何の」といふ形容詞性の文句のない場合には一語としてもよい。

Ma ni au 又は maniau.

Kisya no Ma ni au.

Kisya ni maniau.

made (關) (wa, mo, no)

itu mademo. ima madeno.

「今迄」の意味の koremade は一つづけに書く。

madeni (關) (wa, mo) 時の「までに」。

asu madeni dekimasu ka?

場處に關係した「までに」は離す方が適當である。

Tôkyô kara Kôbe made ni Tonneru ga aru ka?

maduwa (接) 手紙に使ふ「先は」は一語とする。

mae (副) (ni, no)

mae kara. maeni nobeta. maeno Ie.

(ni は離してもよい)。

「試験の前に」は Siken no maeni である。「試験前に」は siken-maeni 又は siken-mae ni.

asamesimaeno Sigoto.

「立たうと云ふ二三日前に(から)」は

tatô to iu ni-sanniti maeni 又は mae ni.

tatô to iu ni-sanniti mae kara.

mae (助數) goninmae no Ryôri.

mai (動尾)

kakumai. benkyôsimai 又は benkyôsumai.
gozaimasumai.

mama (副) (ni, no)

moete iru mama taoreta.

karita mamani natta.

karita mamano Kane.

Doro no mama da.

anomama, konomama, sonomama (ni, no)

は一つづけに書く。

mani (接、副) aidani と同様な使ひ方のもの。これは、本来は Ma ni と書いてよいものであるけれども、接續詞、副詞と見る方がよからう。

miru mani, mite iru mani.

kono mani, sono mani.

「このまに」「そのまに」は、konomani, sonomani と書いてもよいやうに思はれる。

marude (副)

mase, masen, masenanda (ra, ri, rô), masende (wa, mo), maseneba, masento, masezu (動尾) masu に準ずる。

masita (ra, ri, rô), masite (wa, mo) (動尾) masu に準ずる。

masu (助動) 他の助動詞 itasu, môsu, kudasaru, nasaru などと違つて、masu だけは主な動詞につけて書く。

masen, masita, masyô 等も皆同様。

kakimasu, kakimasen.

benkyôsimasita, benkyôsimasyô.

中で、注意すべきは、否定の續く形は kakimasende と de を前へつけて書くが、普通使ふ過去の形「書きませんでした」は、kakimasen desyô と同様 de の前を離して kakimasen desita と書く (§ 188)。

˘masuto, ˘masento に就ては to の條を見い。

˘masumai, ˘masuna, ˘masureba, ˘masuto, ˘masyô (動尾) ˘masu に準ずる。

mata (副) (˘mo, ˘no)

anohito ga mata kimasita.

matano Ori ni itasimasyô.

matawa 1. (廣)

Sakura matawa Momo no Zisetu da.

akaku matawa kuroku narimasu.

2. (接)

watasi ga yuku ka, matawa Ani ga yukimasu.

˘mati 「何町」と前へつづくのは ˘tyô を見い。

mawari (附名) (˘no, ˘ni)

Taiyô no mawari wo

le no mawarino Kakine.

Taiyô no mawarini

˘me (數尾) mittume, sanbanme.

只番號だけでなく、特別なきまつたものの名前のやうになつて居るのは大文字にする。町の何丁目などはそれで、Ittyôme, Santyôme などとする。家の Sandaime, 山の Hatigôme なども同様。

-me (名組)

Berabô-me! kono Hukômono-me ga

meimei (副) (˘ni) 名詞のやうに使ふのも小文字で書く。

anohitotati wa meimei (meimeini) kattena Koto wo itte iru.

「めいめいに」でも、meimei と言ひかへられないのは ni をはなす。

kekkôna Mono wo meimei ni kudasaimasite,

˘mekasii (形組)

hurumekasii Ie.

˘mekasu (動組)

˘meku (動組)

rôzin-mekasu. harumeku.

Mendô (名) mendô˘na (形) (˘ni, ˘de)

Mendô wo kakeru.

mendôna Sigoto.

taihen mendôni natta.

taihen mendô desu.

Midori (名)

midori˘na (形) (˘no, ˘ni)

「緑の」には Midori no と midorino と二通りの書き方

を認める。後の方は「縁な」と云つてもよい場合。

migi (附名) (〱no, 〱ni) §145, 146 を見い。

migi-hidarini hurimawasu などの「右左に」はつなぎを入れて全部一語にする。

mina, minna 1. (副)

kore wa *mina* yoku dekita.

2. (附名、代)

Nakama *minna* ga sô iimasu.

minna ni agemasyô.

minasan (代)

mo (廣) (a) 名詞性の文句にすぐ續く **mo** は、**ga** 又は **wo** に代るので、関係詞と見て離して書く。

watasi **mo**. Sake **mo** nomanai.

(b) **no** につづくのは **no mo** と離す。

watasi ga kiita **no mo**,

この **no** は不定代名詞で **mo** は (a) の **mo** である。

(c) **no** 以外の関係詞につづくのはつけて書く。

nimo, karamo, mademo 等。

(d) 動詞形容詞の續く形と副詞にもつけて書く。

kaitemo, kakanaidemo, yokutemo,

yokumo, kureguremo.

この外、**saemo**, **demo**, **kamo**, **tomo** はそこを見い。

mono 廣さ詞の **mo** に形容詞の語尾の **no** のついたのは、稀に **nan** 又は **iku** のついた分量を示す語の後に

使はれる。これは **kano** と使ひ途が似て居る。

ikutu mono Tekazu wo hete.

mo (副組、數組) 「も一つ」「も少し」の「も」は、次へつけて書く。

mohitotu. mosukosi.

「もう一つ」「もう少し」と「も」の延びたのは獨立の副詞とする。

「も一枚」「も一杯」「も一皿」等は **mô itimai**, **mô ippai**, **mô hitosara** と云ふべきのを疎末に云つたのだと見るのが當つて居るやうである。

mosotto, **motitto**, **motyotto**.

mon' **mono** のつまつた形。

monka (呼) **monoka** のつまつたものだけれども、出來上つた語と見て (') を挿まないで一つづけに書く。

sonna Koto ga dekiru **monka!**

Mono (名) } 「品物」「物事」の意味の「もの」は名詞
mono 1. (代) } として **Mono** と書くけれども、次のやうな特別な使ひ方のは不定代名詞として小文字で書く。

(a) 「人」の意味の「もの」。

kawarino *mono* wo ukagawasemasu.

(b) 前に出した名詞を繰返す代りに使ふ「もの」。

Kotoba no utide, "Hito" "Tukue" no yôna
mono wo Meisi to iu.

(c) 動詞の後其他に、殆ど無意味に使ふ「もの」。

â sita *mono* da kara, kô natta.

Isi ga *mono* wo iu.

arigatai *mon'* da.

名詞になる例。

kekkôna Mono wo tyôdaisimasite,

ano Otoko wa Mono wo siranai.

注意。“Suna no yôna Mono”は「砂に似た物」の意味で、多くは砂以外のものである。“Suna no yôna mono”は「砂で代表される物」の意味で砂を含む。

2. (呼)

Tenki ga warukatta n' desu *mono!*

moncde (*mon'de*) *monono*, *monowo*, (接) 次のやうな接續の用をするのは一つづけに書く。

âwa itta *mononc*, konosaki dô siyô?

ieba yokatta *monowo*, iwanai kara

amari isoida *mon'de*, wasurete kita.

名詞や代名詞の Mono, *mon'* へ関係詞の *no* や *wo* の添うたのは無論別で、離して書く (*wo* の例は上にある)。

monoka (呼) 一つの呼かけ詞になつて居るのはつづけて書く。

konna Mono ga kueru *monoka!*

同じ意味でも「ものですか」「ものでございますか」は分けて書く。

.....*mono* desu ka!

.....*mono* de gozaimasu ka!

mô (副) 「もう一つ」「もう二つ」「もう少し」等の「もう」は獨立の副詞とする。

mô hitotu. *mô* hutatu. *mô* sukosi.

「も一つ」「も少し」は *mohitotu*, *mosukosi* (*mo* の條を見い)。

môsiageru (動) 一つづけに書く。他の動詞の連用形に續く場合は *môsu* と同様にする。

môsu (助動) 他の動詞の連用形につづく場合でも、助動詞として前から離す。

.....*wo* oiwai *môsu*.

.....*wo* gosetumei *môsu*.

mosi, *mosimo* (接)

moto (副) (no)

anohito wa *moto* Yakunin datta.

anohito wa *motono* Yakunin da.

但し

.....*wo* Moto ni site

などでは *Moto* は名詞。

mukasi (副) 名詞として使ふ場合でも大抵小文字で書く。

mukasi kara, *mukasi* no Hito.

但し「昔の」は、場合によつて *mukasino* *Zidai* のやうに *no* をつけて形容詞としてもよい。

又「昔」は場合によつて(獨立した主な題目になつて居る場合には)名詞と見て大文字で書いてもよい。

Mukasi wo omoiokosu.

muni (副) 「無にする」「無になる」の形でだけ使ふ。

hito no Sinsetu wo *muni* suru.

Sinsetu ga *muni* naru.

Murasaki (名) } 「紫の」には Murasaki
 murasaki~na (形) (~no, ~ni) } no と murasakino と二
 通りの書き方を認める。後の方は「紫な」と云つても
 よい場合。尙 ~irona の條を見い。

N

~n (動尾) 否定の語尾は、大抵の場合には n よりは nai を使ふがよい (§284 参照)。

kakan よりは kakanai,

benkyôsen よりは benkyôsinai.

n' no のつまつた言ひ方。(no を見い)

1. (代) kaita n' de aru.

2. (關) kimi n' toko' e.

Na (名) 短い Na よりは、多くの場合に、Namae (名)、

Nappa, Nanoha (菜)のやうな云ひ方がよい。

~na 1. (形尾) 次のやうなのは na までをくるめて形容詞と見るから、前へつけて書く。

sidukana, nigiyakana, kireina, rippaana, konnanna,

bizyututekina, igirisuhûna, hokoridarakena.

前に補ひの文句を要する形容詞 anbaina, bakarina, guaina, guraina, hûna, sôna, tôrina, yôna などはそこを見い。

2. (動) 指定の動詞 da の連體形の na (§185).

この na の前に來るのは必ず名詞又は名詞と同等な文句であるからこれは離して書く。これは次に no, koto, mono などの來る場合に限るやうである。これと 1 の形容詞の語尾の na とを混同してはいけない。

anohito ga Gakusya na koto wa iu mademo nai.
 kôiu Tyûmon na no desu.

anna Yatu ga Geizyutuka na mono ka!

3. (動尾) 否定命令の na. これは前へつける。

hito no Mono wo toruna!

sonnani muyamini benkyôsuruna!

4. (動尾) 普通の文章には使はれない形だけれども、肯定命令の na. これも前へつける (§187)。

motto kireini kakina!

motto benkyôsina!

5. (呼) 場合によつては nâ と云へる。

kono Kwasi wa umaï na!

dôka sô site kudasai na!

Hon wo o-yomi na! (§187).

[これと 3 の否定の na とを混同してはいけない。]

miru na = miru ne, miru nâ.
miruna = mitewa ikenai.]

文の初に来るのもある。
na, sô darô!

nado (廣)

Sûgaku wo benkyô *nado* suru monoka!
Hito wo sagasi *nado* suru.
watasi *nado* mo
Siro Aka Murasaki *nado* no Iro.

nagaikoto (副)**naganen** (副)

naganen hataraita.
naganen no aida.

nagara (副) (ゝno) 1. 動詞につづく場合。

Zi wo kaki *nagara*.
sotoni tati *nagarano* Hanasi.

2. 名詞につづく場合。

Gomendô *nagara*.
Gokurô *nagara*.

「憚りながら」「よそながら」「おそれながら」(恐れつ
つのやうな意味でない場合)は一語と見る。
habakarinagara, yosonagara, osorenagara.

3. 數詞につづく場合。

mittu *nagara* kowarete iru.

zyûnin ga zyûnin *nagara*.

nai (形) (naku, nakereba 等) 1. 動詞 aru の否定と、形
容詞の副詞形へつづく *nai* は離すが、他の動詞の否定
形では前へつける。

nai, naku, nakatta, nakereba, naito 等。
yoku *nai*, kirei de nakatta 等。
kakanai, kakanakatta, kakanakute 等。
benkyôsinai, benkyôsinakereba 等。

2. 組合せ語 (*nai* の前に「の」や「が」などのない場合)
では前へつける。

katazikenai, menbokunai.
matigainai (Matigai ga *nai* の方が工合がよい)。
tigainai, sôinai はそこを見い。

ゝnaide (動尾) 動詞の語尾としてつづけて書く。

kakanaide, benkyôsinaide.

Naka (名) 「交はり」の意味。

Naka ga yoi. *Naka* ga warui.

naka (附名) (ゝno, ゝni) 普通の「中」の意味では多く小文
字で書く、(§ 145, 146 を見い)。

Midu no *naka* kara
Midu no *nakano* Uo.
Midu no *nakani* iru Dôbutu.

nakade (副、接) (ゝwa, ゝmo)

nakade kore ga yoi.

iroiro aru *nakade*,

併し、*naka* と *de* と二つの意味が別々に感ぜられる
ときには離して書く。

Midu no naka de ugoku.

nakereba (動尾、形) *nai* を見い。

naku (副) 1. 動詞へついたのは

kakanaku natta.

benkyôsinaku natta.

2. 独立したのは

Kodomo dewa naku natta.

utokusiku naku natta.

kirei de naku natta.

3. 前に関係詞なしで名詞へつづくのは、語によつては
出来上つた語と見て、前へつける。一般には離す。

goenryonaku 又は *Goenryo naku.*

sikatanaku 又は *Sikata naku.*

nanirano Teikô naku.

nakunaru = 「死亡する」「紛失する」の意味の場合。

nakunasu
nakusuru } = 「失ふ」の意味の場合。

「なく」と「なる」又は「する」「なす」との意味が別
々に感ぜられる場合には *naku naru*, *naku suru* とし
てよい。

~nami~no (形組) (*~ni*, | *de*).

zyûninnamino Kiryô.

hitonamini dekiru.

独立した *namino* (*namino Ningen* などの) もある。

nan' (代) *nani* の略。独立した *nani* を *nan* と略したの
には *nan'* と ' をつける。組合せ語には (') をつけ
ない。 *nani* を見い。

sore wa nan' desu ka?

nandaka (副) 「何となく」の意味の場合。

nandaka henna Kimoti.

「何であるか」の「ある」の意味が明かであるとき、
即ち「なにだか」と云へるときには三つに離す。

sore wa nani (nan') da ka watasi wa siranai.

nande (副) } 「どうして」の意味の「なんで」、「とにかく
nandemo (副) } く」のやうな「なんでも」はいづれも一つ
づけに書く。

nande kimi wa sonna Koto wo sita ka?

sore wa nandemo konna Hanasi desita.

「何」と「で」又は「でも」の意味が別々にあるのは、
nan' de, *nan' demo* と離す。

sore wa nan' (nani) de kosiraeta Mono ka?

nan' demo yoi kara okure!

nandemonai (形) *nan' demo nai* と分けて書く場合もある
が、次のやうな場合には一語とする方が適當である。

nandemonai Koto ni odoroku.

nani, nan' (代)

nani (nan') no tame.

nani ni naru ka?

nani ka aru rasii.

nan' ka siran siroi Mono ga

「など」の意味の「なんか」は別、*nanka* を見い。
mandaka, nandemo, nandemonai, nanibun, nanika-
nasini, nanirano, nanisei, naniseyo, nanisiro, nanno,
nanrano, nanto (nanto ka), nantomoto はそこを見い。

nani (組) 「何」の次に名詞や助数詞を添へて云ふのは、「何」の代りに他の語があるのと同じ扱にする。

Naniya (何屋)、*Nanimaru* (何丸);

Nangwatu Nanniti Nanzi (日附と時刻)

(§ 232, 233)。

nanmai, nanzyaku, nanmonme, nan En nansen.

nanniti (日数)、*nanzikan.*

nanibun (副)

nanibun yorosiku!

nanikanasini (副) 「何となく」の意味のは一つづけに書く。

nanikanasini kanasii.

nanirano, nanrano (形) 普通の口語には使はないけれども、演説口調などでは使ふ。

nanirano Yôï mo site nai.

普通の文章では *tittomo* などにかへてよい。

nanisei, naniseyo, nanisiro (接)

nanisei, takai Yama desu kara.

nanka, nanzo (廣) = *nado* の場合。

watasi ni nanka wakarimasen.

nani ka の意味ならば *nan' ka* とはなす。

nan' ka watasi ni kudasai!

nanno (形) 「なんのこともなかつた」の類では「なんの」は形容詞だから、

nanno Koto mo nakatta.

「何」といふものがあつて、それのといふ意味の場合には *nani no, nan' no* と書く。

nani (nan') no tameni

nanrano (形) *nanirano* を見い。

nanto (副) (mo) 「どう」と同じ意味のもの。

nanto sitemo dekinai.

nanto kangaetemo.

nanto ittemo.

dare ga nanto ittemo.

nanto ka simasyô.

「何と云つても」は *nan' to ittemo* と書ける。

次のやうな「何とも」も此類とする。

nantomoto Môsiwake ga nai.

nanzo (廣) *nanka* を見い。

nara, naraba, nareba (接) これ等は前を離す。

kore ga Huyu nara (naraba, nareba).

Asi ga kirei nara (naraba, nareba).

Hito ga kita nara (naraba, nareba).

「そんなら」は sonnara.

narabini (廣)

nari 1. (廣)

Tarô nari Zirô nari ni

dô nari site.

yuku nari kuru nari.

2. (副) (ni, no)

toru nari nigete itta.

wakaranai narini sunda.

arenari (ni, no), sorenari (ni, no), korenari

(ni, no) 等は一つづけに書く。

3. 外に名詞の「風體」の意味の Nari がある。それを組
合せた語に次のやうな名詞や形容詞がある。

tamagonarino, Dainozinari, dainozinarini (§ 275).

narito, naritomo (廣)

watasi naritomo mairimasyô.

tiisaku naritomo tukurimasyô.

kore narito agemasyô.

naru 1. (形尾) 多く使はれるのは文語の形容詞の語尾で

あるが、それは大抵 na にかへるがよい。

sôdainaru Kesiki よりは sôdaina Kesiki.

ôinaru Ki よりは ôkina Ki.

2. (動) 指定動詞の形容詞形(連體形)。これは離して書
く。場合によつて、to iu, na, no, de aru などと言ひ
かへることが出来る。

watasi no Sensei *naru* (=de aru 又は no) K—
Hakusi.

Kôsi *naru* (=to iu) Hito.

Ani *naru* (=to iu) mono ga dete kita.

narudake (副)

naruhodo (接、呼)

narutake (副)

nasai (助動) nasaru の命令形、前と離す。

kaki nasai! okaki nasai!

benkyô nasai! benkyôsi nasai!

goran nasai! gomen nasai!

nasaru (助動)

nani wo nasaru.

では普通の動詞だから勿論だが、

okaki nasaru.

gobenkyô nasaru.

のやうに助動詞である場合にも離して書く。

nasini (副) (| de). 場合によつては出来上つた語と見て

前へつけて書くが、一般には前を離す。

goenryonasini 又は Goenryo nasini.

Hudôï nasini (nasi de).

nato (廣) narito のつまつたもの。

nazo (廣) nado を見い。

ne, nê 1. (呼) 前を離して書く。

kirei da nê!

2. (動尾) 下品な言ひ方の命令の形「書きねー」の類は、「ねー」を省いては言はないから、全體で命令形とする。

kakinê!

ni 1. (關) (^wa, ^mo) 次のやうな使ひ途は關係詞であるから、離して書く。

Tôkyô ni iru. Akindo ni naru.

Inu ni (=e) yaru. hito ni (=kara) moratta.

Sake gurai ni you monoka?

Kuruma de yobi ni yaru.

o-môsikomi ni natta Hon.

kenbutu ni kuru.

tutaegiki ni kiku.

miru ni oyobanai.

Sanpo ni Ueno e yuku.

Zi wo kaku (no) ni Pen wo tukau.

Kotowaza ni. Hito no itta koto (又は no) ni.

Gakkô e itta ni sôinai.

yoi ni kimatte iru.

yame ni naru.

torikesi ni suru.

ozyan ni suru.

2. (接) 次のやうなのは接續詞で、前を離す。

Sensei no ossyaru ni (niwa),

yoku kangaete miru ni,

yoseba yoi ni,

3. (副尾) (^wa, ^mo) 次のやうな使ひ途で、元來の副詞、又は形容詞の副詞形の語尾と見るべきものは前へつけて書く。

sudeni, dikini, sarani.

kireini, katteni, kiyorakani.

bizyututekini, bussitutekini.

次のやうなのは、場合によつて、名詞と關係詞 ni と見て離してもよい。

enkeini, tamagonarini

(Enkei ni, Tamagonari ni)

amerikaryûni, igirisuhûni.

(Amerikaryû ni, Igrisuuhû ni)

前に補ひ語を取る (又は取ることもある) のは

issyoni, tomoni;

ueni, sitani, nakani の類 (§ 145, 146 を見い)。

^zuni, nasini (そこを見い)。

4. (副尾、接尾) 次の語については、そこを見い。
anbaini, bakarini, dakeni, guaini, guraini, sôni,
tameni, tokini, tôrini, yôni.

5. (接尾) 上の外、
madeni, narabini, noni (そこを見い)。
sikaruni, soreni.

〔niku〕i (形組) (〔ku〕)

kakinikui Hude.

Zi no kakinikui Hude.

setumeisi-nikui Koto.

nimo (關) 普通の関係詞 ni に mo のついた Tôkyô nimo,
watasi nimo のやうなもの外に、
ima nimo, asu nimo.

〔nin〕 (助數) 人數の「何人」の nin は助數詞だから、前へ
つける (§ 225)。

sannin, sanninmae.

nittimo sattimo (副) 此きまつた句だけで使はれる。
nittimo sattimo ugokenai.

no 1. (關) 次のやうな no は関係詞で、離して書く。

Hito no Karada.

watasi no Hon.

omôsikosi no Hon.

gotyûmon no Sinamono.

Hikôki wo kenbutu no Otoko.

Ringo mittu no Nedan.

100 En no Kane.

Nagasa issyaku gosun no Bô.

kotosi mittu no Tosityan.

no を數詞の語尾と見る場合は下の 6 にある。

ga に代つて使はれる no もある。

Iro no siroi Onna.

Rokuzi no natta toki.

元來は關係詞でも、出來上つた語の中にあるのは離さない。時にはつけても離してもよいものもある。

Yononaka. Hinoki. Enosima.

Matunoki 又は Matu no Ki.

Ume-no-hana 又は Ume no Hana.

次の例では、「何の」といふ句が、名詞から導いた形容詞、副詞の補ひ語になつて居る。

Haru no tôrina Kikô.

Hana no yôni utokusii.

關係詞のやうに見えるもので、實際は語尾として書く場合が下の 5, 6 にある。

2. (代) 次のやうに前に形容詞性の文句を受けるのは不定代名詞として離して書く (§ 157 e)。

yoi no wo kudasai!

katte kita no ga yokatta.

Sake wo nomu no wa warui.

次のやうなものもこの類と見る。

watasi wa sô omou no de aru.

dô sita no? (これは呼かけ詞と見てもよい)。

sukkari odorite simatta no!

次に又は前に関係詞の no が来て no が二つ重なるのは、

kinô kaita no no Dekibae wa.....

watasi no Hon wa, anata no no wa

anata no no がつまつて anata n' no となり、又 anata no ともなる (§166)。

kono Hon wa watasi no desu.

の no も、前に関係詞の no の含まれた代名詞だと見るべきだと思ふ。

3. (廣) 特別な云ひ方にnono to といふのがある。

dete yuku no dete yukanai no to itte,

nan' no ka no to gironsite iru.

dano はそこを見い。

4. (呼) 普通ではないが、

yoi Genki da no!

watasi ga yuku kara no!

5. (形尾) 形容詞の役をして居る纏まつた「何の」といふ語は、「の」をつけて一つに書く (§198)。併しこの中には、名詞又は副詞と関係詞の no とに分けてもよい

のがある。

hontôno, hantaino.

bussitutekino, hokoridarakeno.

amerikahûno, igirisuryûno.

ryûkôseino, marugatano, tamagonarino.

〔「風」「流」「性」「形」のついたのは名詞にもなる (§202)].

物質名詞へ no のついたの (§204).

kino (=木製の), kaneno (=金属製の) 等。

これ等は kidukurino, kanedukurino などと云ひかへられるならば云ひかへるがよい。

副詞へ no のついたの。

sukosino, ôkuno, gwanraino.

sekkakuno, mattakuno.

imano, mukasino, genzaino.

但し kyô no, kyonen no, ituka no 等は離す (§222)。

動詞と他の語と組み合せた形容詞 (§203)。

kodomo-damasino, kari-zumaino.

但し次のやうに動詞の性質が保たれて居る場合の no は I の類と見て、形容詞語尾と見ない。従てこれは no の前を離す。

Ginkô e adukeire no Kane.

kenbutu no Hito. gotyûmon no Sina.

6. (數尾) 數詞へ no のついたの。

hitotuno Ringo, sanninno Otoko, zyûmaino Kami.
但し issyaku no Ito, 100 En no Kane 等、金高、長さ、重さ、廣さ等の次の no は離す (§ 241)。

7. 関係詞及び或る動詞の續く形につく no (§ 163, 164 参照)。

Tôkyô karano Kyori. Yôroppa eno Ryokô.
Rômazi ni tuiteno Giron.
Kodomo ni mukatteno Hanasi.

8. 次のやうな形容詞はそこを見い。

ueno, sitano, maeno 等 (§ 145, 146 を見い)。
kono, sono, ano, dono.
korerano, sorerano, arerano.
kotirano (kottino), sotirano (sottino) 等。
anbaino, bakarino, dakeno, gaterano, guaino,
guraino, hûno, nagarano, tamenno, tôrino,
zyôno 等。

7. 次のものもそこを見い。

noni, node, monono; no wa, no mo.

no de } 「ために」の意味のものは一つづけに書く。
node (接)

Ame ga hutta node, sususiku natta.

次の「ので」は no de と離す (no の 2 を見い)。

watasi no katta no (Hude) de kakimasita.
watasi wa kô omou no de aru.

文句の切れる前にある「ので」でも、「のであつて」と云ひかへられるのは、これと同種のもので、no de と離す。

watasi wa kô omou no de, anagati

nokorazu (附名、副) 小文字で書く。

Kazoku nokorazu ga

Kazoku ga nokorazu

nominarazu (接)

no mo 此 no は代名詞だから必ず離す (§ 166)。

no ni } 「に拘らず」の意味の「のに」は一つにつづけ
noni (接) } て書く。

tyûisita noni, matigaeta.

「もの に」又は「ことに」の意味ならば、no が代名詞だから no ni と離す。

kaita no ni Sumi wo kobosita.

aru Hito no iu no ni,

「爲に」と同じ意味の、又は目的を示す「のに」の「の」も不定代名詞だから離す。

kaku no ni Tugô ga yoi.

noti (副、接) (ni, no).

Sotugyô no noti (notini).

sotugyôsite notini,

kaetta notino Hanasi ni siyô.

no wa 此 no は代名詞だから必ず離す (§ 166)。

○

o[˘] (頭)

(a) 普通名詞につくのは

Okwasi, Otôsan, Otanomi.

(b) 固有名詞につくのは

O-Hana, O-Kiku.

[(-)の代りに(')を置き、又はそれを省いてつけて書くのも悪くならう。O'Hana, OKiku].

(c) 動詞、形容詞、副詞等につくのは、

ohanasi suru, otoritugi suru, otiisai, ohayaku 等。

これ等の場合には、oの次に(-)又は(')を挿んで読み易くするのもよい。

onazi (形) (˘na, ˘ni) onazi だけでも形容詞の扱ひにする (§215)。

onazi Iro. watasi to onazi Unmei.

Oya to onazina Kao.

sore to onazini.

onazikoto 単に onazi と云ふのと殆んど同じ意味で云ふ「同じこと」は全部つける。

sitemo sinakutemo onazikoto desu.

onaziyô (˘na (˘ni).**onnamotino** (形)

onnamotino Kasa.

onnano (形) 単に「女」といふ意味で普通に使はれる「女のかた」「女のひと」や「女の子」は

onnano Kata, onnana Hito, onnana Ko.

尤も、

Onna-no-kata, Onna-no-hito, Onnanoko]

と書いてもよい。

「女に關する」「女に屬する」の意味の「女の」は大抵 Onna no でよい。

Onna no Geta. Onna no Kao.

onôno (副) (˘no) 語原から云へば onoono に相違ないけれども、實際の音は onôno の方であると思はれる。且つ「各の」などの見た形も onoonono よりは onônono の方が読みよい。

wareware niwa onôno Tutome ga aru.

onônono Hito ga.

ô (名組) 「大」の意味のもの。

Ootoko. Oosawagi.

名詞でない語に組合せたのもある。

ômatani aruku.

ôku (副、附名) (˘no, ˘wa, ˘mo) 「多い」の副詞形。「多く」と云ひかへられる「多くは」「多くも」は wa.mo を前へつける。

Hanasi ga ôkuwa tigatte iru.

ôkuno Hito wa sô iu ga,

動詞形に *ôkute*, *ôkutewa* 等のあることは他の形容詞と同様。

「何々の多くは」といふときの「多くは」は、「多くが」又は「多くを」の代りになつて居るから、*ôku* を附添ひ名詞と見て *wa* を離して書く。

Kwaiin no ôku wa sore wo sanseisita.

Osimai (名)

osimai ^{no} (形) (ⁿⁱ)

kore no Osimai wa dô naru ka?

osimaino Enzetu wo kikô.

osimaini kakedasita Otoko.

otagai (代)

otagai no Koto desu kara.

otagaini (副)

otagaini (=godôyô) Ki wo tukemasyô.

若し *otagai ni Ki wo tukemasyô* と書けば「私は、あなたに注意ませう、あなたは、私に注意ませう」の意味になる。

otokomotino (形)

otokomotino Kasa.

otokono (形) 單に「男」といふ意味で普通に使はれる「男のかた」「男のひと」や「男の子」は

otokono Kata, otokono Hito, otokono Ko

と書く。尤も

Otoko-no-kata, Otoko-no-hito, Otokonoko と書いてもよい。

「男に關した」「男に屬する」の意味の「男の」は、大抵 *Otoko no* でよい。

Otoko no Geta. Otoko no Kasa.

ototoi (副) 小文字で書く。

R

ra (名尾) 普通名詞、代名詞にはつけ、固有名詞には離す。

Kodomora, watakusira (普通名詞、代名詞)

Nitta-Yosisada ra (固有名詞)

ra は「私等」「子供等」のやうに出來上つた語の外では、文語體に適した言ひ方で、口語體には適しない。
nado, no Nakama などと云ふ方がよい。

rarareru, reru (動尾) 受動の語尾で、前へつけて書く。

tuyoku kerareru. yoku taigûsareru.

hayaku okiraremasu.

rasi ⁱ (形組) (^{ku})

(a) 一つに出來上つた語は全部つける。

otokorasii, kitanarasii, iyarasii.

(b) 「であるらしい」の意味の「らしい」は前を離す。

kyô wa Tenki rasii.

sore wa ano Otoko rasii.

(c) 切れる形の動詞形容詞が前に來るのも同様。

Hito ga kita *rasii*.

Rei (名) 「禮」は Keirei, Ozigi, Orei など; 「例」は Tamesi, Mihon, Narawasi, Sikitari など; 「靈」は Mitama, Tamasii などと云へる。

「例の通り」は

itumo no tōri.

ro (動尾) 命令形の語尾は前へつける。

imani miro!

Ki wo tukero!

丁寧な云ひ方をしない普通の口語文では mii! tukei! の形を標準と見るのが適當である (§ 175)。

Ryô (名組)

Ryôasi, Ryôte.

ryûno (形組) (ni)

amerikaryûno Danpan.

amerikaryûni danpansuru.

Amerikaryû は名詞にも使はれる。

Amerikaryû ni kabureru.

S

sa (名尾) 形容詞の語根から名詞を作る語尾。

Uresisa, Kawayusa, Sidukasa,

Kireisa, Tabetasa, Dekinasa,

Yomiyasusa, Kakinikusa.

此形の次に kagen と云ふ詞をつづける時には間に つなぎ(-) を置く。

Uresisa-kagen, Dekinasa-kagen.

sa (呼) これは前へつけない。

daidyôbu dekiru sa!

saê, saemo (廣)

watasi ni sae (saemo) dekimasu.

anata sae (saemo) yokereba.

saityû (ni) (副) 名詞、名詞形の動詞、關係詞 no のつ いた句などを補ひ語として使はれる。

Sûgaku no Kôgi saityû (saityûni) ôkina Oto ga sita.

Sûgaku wo kôgi saityû (ni)

Kôgi no saityû (ni)

ima Kôgi no saityû desu.

Kôgi saityû no Disin.

saiwai (副) (ni) 次のやうなのは小文字で書く。

saiwai Tuide ga arimasu kara,

oide ni natta wo saiwai,

但し Benkyô wa Saiwai no Moto などの Saiwai は 勿論名詞(名詞であるないは § 141, 142 を見い)。

saki (附名) (no, ni)

Otera no saki wo magaru.

sakino Ie.

asuko no *sakini* mieru Ie.

Sama, San (名組) 普通名詞にはつける。

Otôsan, Odyôsama, Kôtyôsan, Osyôsan.

固有名詞には離す。

Katô Sama, Koike-Hana-ko San.

其外、Gokurôsan (名) gokurôsan^{na} (形) (ⁿⁱ, |de),
Osewasama (名) osewasama^{na} (形) (ⁿⁱ, |de) な
などについては § 216 を見い。尤も、「御世話様になる」
は Osewasama ni naru がよいやうである。

^{sama} (副) (ⁿⁱ, ^{no}) 独立した一語になつて居るのは
前へつけて書く。

buttukesama (ⁿⁱ), aomukesamani,
yukitigaisama (ⁿⁱ),
omôsama asobimawaru.

前にある動詞の中止形が普通の動詞の役をして居る
ときには、(特に前に副詞性の句が添うて居れば) sama
の前を離す。

Yai! to ii sama bunnagutta.

^{saseru}, ^{seru} (動尾) 使役形の語尾。

benkyôsaseru, benkyôsasemasen 等。

kakaseru, kakasemasen 等。

Se (名) 「せなか」「うしろ」の意味のものは usiro 又は
Senaka と云ふ方がよい。

Tokonoma wo Se (usiro-) ni site

sei (附名) 次のやうな使ひ方の「せい」は附添ひ名詞とし
て小文字で書く。

Tosi wo totta sei desu.

kutabireta sei ka, umaku yukimasen.

Otosi no sei ni sitewa,

^{seino} (形) 1. 「何々性の」の意味の。「何々性」だけで名
詞にも使ふが「何々性の」の次にそれに形容される名詞
が来るならば、no までつけて形容詞と見た方がよい
(§ 202, 203)。

ryûkôseino Kaze.

hagesii ryûkôseino Kaze.

ryûkôseino hagesii Kaze.

これ等では hagesii が Kaze につくが、若し「流行
性が劇しい風」の意味ならば

Ryûkôsei no hagesii Kaze.

hagesii Ryûkôsei no Kaze.

とする。

2. 「何々製の」の意味の。これは ...dukurino 又は...no
などとする方が上のものと紛れなくてよい。

gomuseino Ningyô.

これよりは gomudukurino Ningyô, gomuno Ningyô,
又は Gomu-ningyô と云ふ方がよい。

senpô (代) (^{no}) 「先方の」には形容詞 (senpôno) と、代
名詞に關係詞の no の添うたのとある。

senpô no Iibun wo kiite. (代)

senpôno Hito wa (形)

Sensei (名) 「誰先生」と云ふのは次のやうに書く。

Katô Sensei. Kôtyô Sensei.

Sewa (名)、sewa[~]na (形) ([~]ni, | de) (§216).

hito no Sewa wo suru.

hito no Sewa ni naru.

sewana Koto.

osewasama de gozaimasita.

Si (名) 「氏」は Udi と讀むことにきめて居る。

「詩」は場合によつて Karauta, Kansi などと云へる。

「死」は Mimakari と云へる。「逝去」のままの Seikyo も使へないことはない。「死ぬ」の名詞形 Sini は使ひつけば行はれさうに見える、組合せ語には Oborezini, Kogarezini など多く行はれて居るから。

si (接)

Sake mo nomanai si, Tabako mo suwanai.

Kitigai dya arumai si,

Siawase (名)、siawase[~]na (形) ([~]ni, | de) (§216 参照)。

taihenna Siawase wo simasita.

taihen siawasena Minoue ni natta,

sore wa taihen siawase desu.

sidai 1. (附名) 次のやうな使ひ方のもの。

sorede ukagatta sidai desu.

2. (副) ([~]ni) 「段々に」「とどきに」などの意味のもの。

sidaini ôkiku naru.

deki sidai (sidaini).

Taku e kaeri sidai (sidaini),

3. [~]na (形) ([~]no, [~]ni, | de) 次のやうな(「に従つて」

などの意味の) 使ひ方は補ひを要する形容詞と見る。

Benkyô sidaina mono desu.

Okangae sidaini negaimasu.

Kokoromoti sidai de, dô demo naru.

sika, sikya (廣)

kore sika nai. Yama kara sika dete konai.

sikanominarazu, 又は sika nomi narazu (接) “sore bakari

de naku” などと云ひかへる方がよい。

sikaruni (接) 一つづけに書く。

sikasi (接)、sikasinaraga (接)

[~]siki (名)、[~]sikino (形)

Amerikasiki ga okonawareru.

nipponsikino Tudurikata.

變つた意味の「しき」には次のやうなのがある。

koresikino Koto ni odorote.

sikya (廣) sika を見い。

Simai (名)、simai[~]no (形) ([~]ni)

kore no Simai wa dô naru ka?

simaino Densya.

simaini nakidasita.

Sinri と單獨にいふのは「真理」の意味。「心理」は大抵 *Sinrigaku*, *Sinri-sayô* などと云へる。

Siritu 「市立」は *Si-date*, *si-dateno* (形)、「私立」は *Hito-date*, *hito-dateno* (形) と云へさうである (§266)。

Siro (名) } 形容詞の *siroi*, 副詞形 *siroku*, 名
siro[^]i (形) ([^]ku) } 詞の *Siro* は普通であるが、其他
siro[^]no (形) ([^]ni) } *sirono* (形), *sironi* (副) を認める。

sirono Hata = *siroi Hata*.

sironi nuru = *siroku nuru*.

sita (附名) 「何々の下」と使ふ場合や、「何々の」と直接につづいて居なくても同様な使ひ途の場合には、小文字で *sita* と書く、尙「の」や「に」がつづく時には
 *no sita*, *no sitano*, *no sitani*
 と書く。 (§145, 146 を見い)。

sita 1. (動尾) 「勉強した」「御願した」の類の「した」は *suru* の條で見い。

2. (形) 副詞へつづいて形容詞を作る。

hakkiri sita Kakiburi.

hirobiroto sita Nohara.

これは一つづけに書いてもよかりさうであるけれども、*hakkiri suru desyô*, *hakkiri site inai* 等と變るから、そして前の部分が副詞であることが明であるから上のやうに書く。

site 1. (動尾) 「勉強して」「御願して」などの「して」は *suru* の條で見い。

2. (接) *sôsite* の略。

sitemiruto (接)

soba (附名) ([^]no, [^]ni) §145, 146 並に *ue* の條を見い。

Kawa no soba kara,

Kawa no sobano Ie.

Kawa no sobani aru Ie.

soitu (代) 小文字で書く。

「そいつあ」は *soitu 'a* と書く。(') は *w* のぬけたことを示す。

soko, sokora, sokoira (代)

sokora atari. sokoira hen.

sokode (接) 「その處で」の意味がなく只文章を始める語。

sokode, watasi wa kô simasita.

「その處で」の意味なれば無論 *soko de* と書く。

sonna (形) 「そのやうな」の意味のもの。

sonnani (副)

sonnara (接)

sono (形) 指して云ふ形容詞。

sono Ie. sono Hito.

sore no と同じ意味の場合には成るべく *sore no* と書くがよい。又丸で *sono* のいらぬ所に書く人も多いが、それは省くがよい (§293)。

...wa, *sono* Tukaimiti de miruto,

よりは

.....wa, *sore no* Tukaimiti

kare wa *sono* Migite wo agete,

よりは

kare wa Migite wo agete,

sono naka kara よりは *sore no* naka kara.

sono nakani よりは *sore no* nakani.

出来上つた語と見てよいのは

sonotoki (副) (˘ni)

sonotôri (副) (˘ni, ˘na, ˘no)

sonoue (副) (˘ni, ˘no)

sonouti (副) (˘ni, ˘no)

sonoyô˘na (形) (˘ni, | de).

sô 1. (副) sonoyôni の意味のもの。

sôiu, sôitta, sôita が *sonna* の意味ならば、つけてこの通りに書く。併し、sonoyôni iu, sonoyôni itta, sonoyôni sita の意味ならば、sô の次を離す。

sôsite, sôsuroto はそこを見い。

2. 「何々しさう」「うれしさう」「何々するさう」等の「さう」は sôna を見い。

sôinai (形) つづけて書く。但し「相違がない」ならば、「相違」を名詞の扱ひにする。

.....sita ni sôinai.

.....sita ni Sôï ga nai.

「相違ありません」「相違ございません」は

.....sita ni sôï arimasen.

.....sita ni sôï gozaimasen.

sô˘na (形) (˘ni, | de) 動詞、形容詞につく sô (sôna, sôni) には二色ある。

(a) 中止形(形容詞では語根)の次に來るもの、これは形容詞のやうになるので前へつづける。

dekisô desu.

uresisô da.

yomesôna mono da.

yukitasôni site iru.

(b) 言ひ切る形の次に來るもの、これはつゞけない。

dekiru sô desu.

uresii sô da.

yameru sôna.

yukitai sôni kikimasita.

sôsite (接) } 次の文章を起す爲のことばで、suru とい
sôsuroto (接) } ふ動詞の意味の明でない場合には、接續詞として一つづけに書く。

Ani ga kakete kimasita; sôsite kô môsimasita,...

sôsuroto Otôto ga

此場合には多く、sôsite を sosite, sôsuroto を suruto と云ひかへられる。

若し *suru* といふ働きの心持が明であるならば、*sô* の次を離して書く。

sô site kara, watasi wa

watasi ga sô suruto, anohito wa

sôsitemiruto (接) 文章の初に置くもの。

sôtai (接、副) (〃*ni*, 〃*no*)

sôtai, Dôbutu to iu mono wa

sôtaini akaku natte iru.

sôtaino Hiyô wa ikura? (「費用の全部」の意味)。

「費用」の外に「總體」と指していふものが(例へば「買物總體」の類が)別にあつて、その費用といふ意味ならば、*sôtai no Hiyô*。其外名詞として使はれる場合にも、副詞の名詞状の使ひ方と見て小文字で書く。

sôtai ga akaku natta.

sore (代) 次につけるのは

sorebakari (*soreppakari*) (副) (〃*no*) = *sorehodo* の場合。

soredake (副) (〃*no*) = *sorehodo* の場合。

soregiri (*sorekkiri*) (副) (〃*no*).

= *sore wo Osimai to site* の場合。

soregurai (副) (〃*no*) = *sorehodo* の場合。

sorehodo (副) (〃*no*)

bakari, dake, giri が「のみ」の意味、*gurai* が「他は兎に角それ位」の意味で、何れもそれを省いても文の脈が通るときには、これ等は廣さ詞として使つてあ

るので、*sore* の次を離して書く。

sore bakari wa

sore dake wa

sore giri nara [*soregiri nara* てもよい
(「それが *Osimai* なら」の意味になる)]

sore gurai wa

sorekara (副) 「それにつづいて」「其時から以後」の意味に單獨に使はれる時には一つづけに書く。

併し、「それから後」「それからさき」のやうな句や、「そのものから」の意味の場合には、*sore kara* と離す。

sore kara notino Koto wo siranai.

sorerano (形) 指して云ふ時には *no* をつける。

sorerano Hito. sorerano Hon.

「それ等の人(又は物)の」の意味ならば「それら」は代名詞ゆゑ、*sorera no* と離す。

sorede (〃*wa*, 〃*mo*), *soreni*, *soretomo* (接) 文章を起す爲に使ふ接續詞。

sorede, watasi wa kô simasita.

soredemo, watasi wa kô omoimasu.

soreni, konna Koto mo aru kara,

soretomo, yuku koto ni suru ka nâ?

「それ」と「で」「に」「とも」との意味が別々に感ぜられるときには *sore* の次を離す。

.....wo sore de tukurimasita.

.....wo *sore ni* iremasita.

.....wo *sore tomo* issyoni mazemasyô.

soreyueni (接)

sorezore (soresore) (副) (no)

ano Koto wa *sorezore* môsikomimasita.

sorezoreno Muki ni môsikomimasita.

sotira, sotti (代) } 指して「そちらの」と云ふのは

sotirano, sottino (形) } sotirano:—

sotirano Hude wo misete kudasai!

「そちらの家(處、人、物等)の」と云ふ意味ならば no
を離す:—

sotira no Nedan wa ikura?

soto (附名) (no, ni) (§145, 146 並に ue 1 の條を見い)。

Tikyû no *soto* kara.

Ie no *sotono* Kûki.

Ie no *sotoni* iru Hito.

subete (附名、副) (no) 名詞状に使ふときにも小文字で書
く。

kore de *subete* dekimasita.

subeteno Hôhō wo kokorōmita.

subete wo kokorōmita.

sudeni (副)

sue (副、接) (ni)

Kenkyû no *sue* (副詞).....

hukaku kenkyûsita sue, (接續詞)

などでは小文字で書く。

「去年の末に」の類では無論名詞で、

kyonen no Sue ni,

sugara (副組) 口語では少いが、

mitisugara, yomosugara.

sukkari (副)

kore de *sukkari* dekimasita.

sukosi (副) (no, wa, mo)

sukosi wakaranai.

sukosimo wakaranai.

sukosiwa wakaruru.

sukosino koto de Ma ni awanakatta.

suru 1. (動) 獨立な *suru*.

Sigoto wo suru.

2. (動尾) (a) 字音動詞は、普通の場合には *suru* へつけ
て書く (§ 168)。

benkyôsuru, benkyôsita, benkyôsinai 等。

臨時に組立てたもの(外國語に *suru* をつけたのも此
うち)や、純日本動詞の中止形へ *suru* のついたものな
どは間に (-) をはさむ。

3 wo *hyakubai-site*,

Eigo wo yomikaki-suru

Ie no mae wo *sudôri-suru*.

形容詞のやうに使ふ場合も同様。

(b) 前に o 又は go がつく時には、suru の前を離す (§ 169, 186)。

ohanasi suru, gosyôkai suru.

suruto (接) sôsuruto を見い。

surya sureba の略。凡て suru と同様に扱ふ。

syaku (名組)

Kôsyaku, Hakusyaku,

「大隈候」「東郷伯」などは Ookuma Kôsyaku, Tôgô Hakusyaku と書くがよい。

「公爵」を Kinsyaku と呼び慣はすことが出来れば、「候爵」との區別がついて都合がよからう。

長さの「尺」は § 226 を見い。

Syô-Itii, Syô-Nii,

syû (名組) Kodomosyû, Wakaisyû などと書く。

T

ta (動尾)

kaita, benkyôsite, yokatta.

takke, tara, tari, taru はそこを見い。

tabini (tanbini), tabigotoni (副、接)

.....ni sankei no tabini,

Otaku e agaru tanbini,

tai (形組) (taku)

kakitai, benkyôsitei.

kakitaku omou. benkyôsitakatta.

taisi~ta (形) (~te 副)

taisita Hakken.

taisite erakumo nai.

takari-sô~na (形組) (~ni, | de)

kakitakari-sôna, benkyôsitakari-sôni.

takke (動尾)

kaitakke, benkyôsitakke.

tamae (助動) 前を離す。

kaki tamae!

benkyôsi tamae!

Tame (名) 「利益」の意味の「ため」は Tame.

Yononaka no Tame wo hakare!

Hito no Tame ni naru Koto wo suru.

tame (副、接) (~ni, ~no) 下のやうな場合の「ため(た

めに、ための)」は補ひ語を要する副詞である。

sôiu Baai no tameni (tame) Yôï wo suru.

sôiu Baai no tameno Yôï.

kore wa no tame desu.

下のやうな場合の tameni (tame) は接續詞である。

Kyaku ga atta tameni (=node) derarenakatta.

tara (動尾)

kaitara, benkyôsitara.

˘tari (動尾)

mitari kiitari suru.

˘taru (形) (a) 動詞から來たのでないものは前へつける。
dôdôtaru Hûsai.

(b) 動詞の過去の形を文語體で形容詞に使うのも
˘taru がつくが、これは口語の ˘ta の形にする方がよ
い。

A. Udi ga. (no) kenkyûsitaru Mondai
は

A. Udi ga (no) kenkyûsita Mondai
とするがよい。

˘tasô˘na (形組) (˘ni, | de)

kakitasôna, benkyôsiteasôna.

˘tate (名組) (˘no)

Kosiraetate wo karimasita.

kosiraetateno Ie.

˘tati (名尾) 普通名詞や代名詞ではつけ、固有名詞では離
す。

Kodomotati, Okosantati, watasitati.

Natume San tati.

˘ta tte (˘mo) 「書いたつて」の類は tte の條を見い。

˘te 1. (名尾) 動詞へつけて、する人を示す。

Kakite, Yomite.

2. (動尾) (˘mo, ˘wa) 續く形のうちの接續形。

kaite, itte, benkyôsite, yokute.

「何々して居る」は

kaite iru, benkyôsite iru

であるが、それを略して「何々してる」といふのは

kaite 'ru, benkyôsite 'ru

として、(') で (i) のぬけたことを示す。

˘teki˘na (形組) (˘ni, | de)

bizyututekina Ie. rirontekini ronzuru.

kore wa bizyututeki desu.

「美術的觀察」のやうな云ひ方では、「美術的」が形容
詞の語尾を備へて居ないから、全部を一つの組み合せ
詞と見て Bizyututeki-kwansatu と書くのが正當であ
る。かういふのは成るべく「な」又は「の」を挿んで
bizyututekina (bizyututekino) Kwansatu

と分ける方がよい。

tigainai (形) つづけて書く。

sore ni tigainai.

但し「違ひがない」と「が」があれば Tigai を名詞
として

sore ni Tigai ga nai.

「ちがひありません」「ちがひございません」は

tigai arimasen. tigai gozaimasen.

Tikaduki (名), tikaduki˘no (形) (˘ni)

watasi no Tikaduki kara.

tikadukino Otoko ga imasite,

tikadukini itasite orimasu.

Tikaku (名) 形容詞の *tikai* の副詞形 *tikaku* を名詞に使
つたもの。

honno *Tikaku* e mairimasita.

[^]*timau*, [^]*timatta*, [^]*timatte* (動尾)

[^]*te simau*, [^]*te simatta*, [^]*te simatte*

をつめた言ひ方。普通の書き物には、つめない言ひ方

[^]*te simau* 等の方を使ふがよい。例へば

ittimau より *itte simau* など。

titto, **tittomo**, **tittowa** (副)

To (名) 「戸」は **To** の外 *Toita*, *Amado* など、「砥」は
Toisi と云へる。

to 1. (關) ([^]*no*) これは前へつづけない。

Midu ga Yu to (=ni) naru.

sore to onazi da.

Tomodati to asobu. Tomodati tonno Sôdan de...

boku wa Tarô to môsu mono desu.

2. (廣) これも前へつづけない。

Tôkyô to Oosaka.

kyonen to kotosi to wa hizyôna Tigai da.

3. (接) ([^]*no*) これも前へつづけない。

kô kaite kure to iu Tyûmon.

kare wa "Hai, syôtisimasita" to kotaeta.

"....." *tono Henzi wo kiite,*

4. (接) *tomo* の簡単になつたもの。これも離す。

dô narô to (-mo) kamawanai.

yukô to (-mo) yukumai to (-mo) watasi no Katte da.

yukazu to (-mo) yoi darô.

5. (動尾) 動詞、形容詞の語尾の *to*。これは動詞形容詞
の現在の形に添うて「...すれば」「...すると共に」と似た
意味になるもので、語尾と見て前へつける (§ 181)。

yomuto wakarû.

Uti e kaeruto Ame ga huridasita.

motto hiroito yoi.

motto siduka dato yoi ga,

6. (副尾) 次のやうなのは前へつづける。

ariarito arawareru. hakkirito mieru.

hanzento wakarû.

擬聲詞と見るべきものは *to* を離した方がよからう。

pikari to hikaru. ponpon to Oto ga suru.

bôbô to moeagaru.

7. (廣) ([^]*wa*) 特別な言ひ方に、こんなのがあつた。

ano Otoko wa nido to konai.

itizikan to tudukanai.

itiniti hyakumai towa kakenai.

この言ひ方は、*to* の前に数詞が来るにきまつて居るが、*to* を省いても文
の脈の保たれる點から廣き詞と見るのが當つて居ると思はれる。

8. 次のものはそこを見い。

toka, tomo, to sita, tosite, towa.

toka (廣) (a)「とか……とか」と重ねて使ふの、及び「とか」の「と」が獨立の「と」の意味を持つて居ないのは toka とつける。

dô toka simasyô.

yuku toka kaeru toka kime nasai!

この場合の「とか」の「と」は意味が「ときめる」とつゞくやうにも考へられるけれども、「行くなり歸るなり早くきめなさい」と較べれば、toka を廣さ詞と見る方が當つて居ることが分る。

nanto ka (dô ka の意味の) は別、そこを見い。

(b) 但し、一つある「とか」の「と」が獨立な to と同じ役をして居るのは to ka と離す。

dare to ka asubô.

nan' to ka itte imasita.

Toki (名) 「時刻」「時間」「機會」「時勢」の意味で「とき」が重い意味を持つときは、名詞として Toki と書く。

(toki を見い)

Toki wo usinauna!

Toki ni ôzite, tekitôni suru.

toki (副、接) (ni, niwa, nimo, wa, mo)

「……するとき」「……したとき」「……のとき」だけで、後に關係詞が來ないのは副詞 (又は副詞性の接續

詞)の「とき」である。次に「に (には、にも)」其他の關係詞があつても、ただの「とき」と同じ心持ならば矢張副詞として小文字で書く。

Tôtyaku no toki (tokini), ……

Tôkyô ni o-tuki no toki kara, Ame ga hurimasita.

watasi ga Tôkyô e tuita toki, ……

次の語は各一つづけに書く。

anotoki (ni), sonotoki (ni), konotoki (ni),

arutoki (ni).

tokidoki (副) 小文字で書く。

tokino (形) 副詞接續詞の toki に no のついたのは、それが直接に名詞に關係するときには、tokino と書くのが工合がよい。

hasiru tokino Hayasa.

isogasii tokino Denpô.

A. Kun ga kita tokino Hanasi de.

但し次のやうなのは no をはなす。

kôiu toki no tameno Yôï.

Tôkyô e kita toki no koto, ……

sonotoki no, arutoki no.

Tokoro (名) 「場所」の意味が明らかな「ところ」は名詞で、Tokoro と書く。「番地」の意味の「ところ」も同様。

watasi no Tokoro wa …… desu.

anata no Otokoro wa?

同じく場所の意味でも、場所といふ氣持の少い熟語と見るべき文句では小文字で書く。次の (a) の例を見い。

tokoro 1. (代) 次のやうなのは不定代名詞として小文字で書く。

(a) 「時」「場合」のやうな意味のもの及び「場所」の意味の弱いもの。

dekakeru tokoro e hito ga kita.

watasi no tokoro e myôna Hito ga kite

(b) 「事柄」「有様」のやうな意味のもの。

mite kita tokoro wo sonomama môsiagemasu.

(c) 殆んど無意味に、只前の文句を纏めて名詞句にするだけのもの。

hito no iu tokoro ni yoreba,

watasi no kangaeru tokoro dewa,

2. (接) 「ところが」と同じやうに使ふ接續詞。

itte mimasita tokoro, taihenna Sawagi desita.

tokorono (形) 次のやうに使ふ「ところの」。

watasi no kiita tokorono Uwasa = watasi no kiita Uwasa.

この「ところの」は全く意味のないもので、會話には使はないけれども、同じ名詞にかゝる形容句が澤山あつたり、形容句とそれのかゝる名詞との間に他の長い句が挿まつて居るやうな場合に、句の處で文が切れ

てゐないことを示すのに都合のよいことがある。

watasi ga kiita tokorono, wareware no Gakkô ni kwankeisuru Uwasa ni yoreba,

この場合に tokorono を省くと、その前の句の連絡が不安心な氣がする。

tokorode, tokoroga (接) 文章の終りにも初めにも使はれる。

sô itta tokoroga, taihen okorimasita.

tokoroga, nakanaka syôtisimasen.

sonnani itta tokorode, Siyô ga nai.

tokorode, kimi wa dô desu.

但し、「今の處がよい」「今の處で我慢する」などでは、「處」が名詞、「が、で」が關係詞だから、Tokoro ga, Tokoro de と書く。

tokorodokoro (副) 名詞のやうに使ふ場合にも小文字で書く。

kono Hon wa tokorodokoro matigatte iru.

tokorodokoro ni Matigai ga aru.

tomo 1. (關) 關係詞の to へ mo のついたもの。

Tarô tomo asobi, Zirô tomo asobu.

kore tomo nite iru.

2. (副) 數詞に添へて「ながら」と同様な意味を表はす。

hutatu tomo, zyûnin tomo.

3. (接) 接續詞の to へ mo のついたもの。

日暮里 wo Nippori tomo Higurasi-no-sato tomo yomu.

Me tomo Hana tomo wakaranai も此類。
dô tomo ienai.

但し nantomo はつける (nanto を見い)。
sorya nantomo ienai.

4. (接) 別の意味で使う接續詞。

dô narô tomo kamawanai.
nani ga koyô tomo bikutomo sinai.
yukazu tomo yoi darô.
osoku tomo asu madeniwa dekiru.
kasu tomo karinai ga yoi.

5. (呼)

daidyôbu desu tomo!
yoi tomo!

soretomo (接)、nantomo (副) はつける (そこを見い)。

tomonî (副)

tomonî hatarakimasyô.

普通の口語では issyoni と云ふ。

・ tō (廣) 廣さ詞のやうな意味で、多く名詞に添へて使ふ。

大抵 nado などにかへた方がよい。

Kisya Kisen tō ni notte yuku.

Siro Aka Murasaki tō no Hana.

˘tō (名組) (˘no)

Ittō, Nitō, Santō.

ittōno Kyaku. nitōno Kome.

Tōku (名) 形容詞の tōi の副詞形 tōku を名詞に使つたもの。

taihenna Tōku e yukimasita.

tōri (副、接) (˘ni, ˘no)

goran no tōri (tōrini, tōri de),

goran no tōrino Arisama.

watasi ga itta tōri,

anotōri, konotōri, sonotōri はつける。

˘to sita (形句) 次のやうなのは副詞と動詞とに分けて書く。動詞形に使ふときには sita がいろいろに變る。

hirobiroto sita Nohara.

Nohara ga hirobiroto site, Kimoti ga yoi.

sazo hirobiroto suru desyō.

to site

} (a) 「にして」と云ひ換へてもよいときは、
tosite (副) 「して」が全くの動詞であるから、to site と離して書く。

Yosisada wo Taisyō to site, zyūman no Gunzei ga

(b) 「の資格で」の意味又は「として」を「に」と云ひ換へられる場合には「何々として」が全くの副詞句で、動詞の意味がない。此場合には、tosite とつける。

Kyōsi tosite watasi wa sō suru wake ni

yukanai.

Taisyô tosite Yosisada wo tukawasareta.

Yosisada wo Taisyô tosite tukawasareta でも同じことであるが、「義貞を大將にして遣はされた」とは云へなくて、「義貞を大將の資格で遣はされた」の意味であるから、tosite を一つに書く。

kono Kusuri wo Gezai tosite tukau ga yoi.

此例では、「として」を「にして」と云へないことはないけれども、「の資格で」又は「に」といふ方が原文の意味に當つて居る。

towa 1. (關) 關係詞の to に wa のついたのもある。

kimi towa asubanai.

2. (接) 接續詞の to に wa のついたもの。

minai towa iwanai.

3. (接) 「といふのは」の意味のもの。これは固まつた云ひ方と見て、つける。

Kumo towa nani?

Iya da towa dôiu Wake ka?

これと 2 の例との差は、2 の方は wa だけ省いて「見ないと云はない」と云へるが、ここのはさう云へない點にある。

4. (呼)

.....sita towa!

5. 廣さ詞の普通の to (to の 2) に wa のつゞくのは離

す、その wa は ga の代りになつて居るから。

Saru to Inu to wa Naka ga warui.

6. to の 7 と同じ使ひ途の「とは」は towa とつける。
nido towa korarenai.

towa ie (接句)

towa iu monono (接句)

tte (接) (ゝmo) 正式な云ひ方には使はないが、引用の to と同様に、又は過去の動詞の次で tote の意味に使う。

kaita tte

kakô tte } môsimasita.

kaku tte

kaita tte (ゝmo) dame desu.

但し次のやうな datte は出来上つた語と見て一つづけに書く。

Tora datte Sisi datte Ningen niwa kanawanai.

datte, kô desu mono.

尤も、引用の「.....だと」の意味の「だつて」は離す。

sore wa kô da tte môsimasu.

ゝtu (組) 「の」に對する古語。熟語になつて居るのは前後共つけて書く。

Amatukaze, Uetugata, Amatukami.

tugi (附名) (ゝno, ゝni) §145, 146 の種類と見る。

tugi wa Yokosuka!

tugini noberu tôri.

tugino Mondai wa.

tuite (副) (ゝwa, ゝmo, ゝno) 動詞の副詞形。

sore ni tuite (tuitemo, tuitewa),

sore ni tuiteno Hanasi.

.....sita ni tuitewa,

tuitewa (接) 上の tuitewa と違つて獨立して使はれるもの。

tuitewa, kô negaitai.

tukamaturu (助動) 前を離す。

sanzyô tukamaturimasite,

ohikiuke tukamaturimasita uewa,

tumari, tumaru tokoro (接、副)

tumari, kôiu Koto ni narimasu.

sore wa tumari kô desu.

「つまり」と同じやうに使ふ「つまる」ところは tumaru tokoro. これは理窟からは tumarutokoro と一語に書いてもよいが、離れた方が読みよい。

tumori (附名) 次のやうなのは附添ひ名詞とする (§ 148)。

anohito ga kuru tumori desita node,

「つもり」が「心組」の意味が明らかであれば、名詞として Tumori とする。

watasi no Tumori dewa,

tutu (副) 前を離す。

kaki tutu. benkyôsi tutu.

ゝtya, ゝtyâ (動尾) 1. teba のつまつたもの。

uteba を utyâ.

2. ti wa のつまつたもの

uti wa sinai を utya (utyâ) sinai.

3. tewa のつまつたもの。

sutetewa ikenai を sutetya (sutetyâ) ikenai.

ゝtyan (名組) 前へつけて書く。

Tosityan, Yottyan, Bottyan.

ゝtyau, ゝtyatta, ゝtyatte (動尾) ゝte simau, ゝte simatta,

ゝte simatte をつめた言ひやう。普通の書き物には、もとのつめない言ひやうを使ふがよい。例へば、

ittyau よりは itte simau 等。

ゝtyô (名組) 行政区の「町」(市町村の町) でない普通の「町」は、すぐ前へつけて書く、(これは「町」を省いては使はない語)。少し廣い區劃の名が前に添うたのは離して書く。

Sudatyô. Komagome Akebonotyô.

市町村制の「町」(例へば山口縣の山口町のやうなのは、それを省いても(只「山口」とも)云ふのが普通で、それは間につなぎ(-)を挿むのがよい。(mati と讀んでも同様)。

Yamaguti-tyô 又は Yamaguti-mati.

距離の「何町」は數詞で、普通の通り小文字。

ittyô, nityô, sanzittyô.

˘tyôme (名組) 町の「何丁目」は数字よりは字の方がよい。
Ittyôme, Santyôme.

tyû to iu をつめた言ひ方。普通の文章には必ず to iu の
方の正しい言ひ方を使ふがよい。

˘tyû (˘ni) (副組)

rusutyû, rusutyûni.
rusutyû no Dekigoto.
ima kangaetyû da.
Doitu to sensôtyû da.

U

Udi (名、名組) 「誰氏」は次のやうに書く。

Itô Udi, Itô-Tarô Udi.

誰と言はずに、前に書いた人を意味する「氏」は、只
「何誰」を略しただけのものと見て Udi と書く [理窟
から云ふと代名詞と見るのが當つて居るかも知れない
けれども]。

ue 1. (附名) (˘no, ˘ni) 「うへ」「した」「まへ」「うしろ」
「なか」「そと」「みぎ」「ひだり」「さき」「あと」「むかう」
「てまへ」「あいだ」「つぎ」などは元來名詞であるから、
大文字で Ue, Sita 等と書くべき筈であるが、これら
は多く別に何かがあつて、それに関係しての「うへ」な
り「した」なりで、獨立に重い意味をなすわけでない
から、小文字で書く方が氣持がよい。

ue, sita, mae, usiro, naka, uti, soto, migi, hidari,
saki, ato, mukô, temae, aida, tugi.

Tukue no ue kara

kami, simo, gururi, mawari, soba, katawara 等も同
様な扱にしてよからう。

Mannaka, Utigawa, Sotogawa などになると、大抵
普通の名詞と見て大文字で書く方がよいやうである。

上のやうな語に no (「にある」「に關係する」の意味
の no) のついたのは形容詞, ni (「にある」の意味の ni,
場所の de 又は e の意味の ni) のついたのは副詞と見
ていづれも一つづけに書く。理窟からはこれらは名詞
へ關係詞の no ni が添うたものと見て離して書いても
よいわけであるけれども便宜上つけて書く (§ 146)。

ueno hô e agaru.

ueni nobeta tôri,

Tukue no ueno Hon.

Tukue no ueni Hon ga aru.

2. (接) (˘wa)

Gakkô wo sotugyô no ue,

Sigoto wo sumasita uewa, katteni site yoi.

konoue, sonoue は一つづけに書く。

uede (接) (˘wa) 「後に」のやうな意味のもの。

kore wo sita uede, sore wo siyô.

ueni (接) 「以上に」のやうな意味のもの。

kore wo sita *ueni*, sore wo *siyô*.

uesitani (副)

Te wo *uesitani* ugokasu.

uru (又は *eru*) (助動) 普通の動詞にもなるが、

kaki *uru* (*eru*), kaki *enai*

などのやうなのは前を離す。

usiro (附名) (\sim no, \sim ni) § 145, 146 並に *ue* 1 の條を見
い。

Hito no *usiro* kara.

Ie no *usirono* Yama.

Ie no *usironi* aru Yama.

Uti (名) 「家」の意味の *Uti*.

uti, *utide* (副、接) 次のやうなのは小文字で書く。

Kotoba no *uti* (*utide*),

iroirona *Sigoto* wo sita *uti* (*utide*),

uti (附名) (\sim no, \sim ni) § 145, 146 並に *ue* 1 の條を見
い。

Gakkô no *uti* *dewa*.

Ie no *utino* *Kûki*.

Kûki no *utini* *hukumareru* *Suizyôki*.

W

wa 1. (廣) 本來は廣さ詞であるが、場合によつて次のや

うに付け離しをきめる。

(a) 名詞にすぐ(又は廣さ詞を挿んで)續くのは、*ga*
又は *wo* に代るので、關係詞と見て離して書く。

watasi wa *Sake dake wa* *nomimasen*.

動詞の名詞形につづくのも同様。

kaki *wa* *sinai*.

kaki *wa* *kaita ga*,

(b) *no* につづくのは *no wa* とはなす。

watasi no *kiita no wa*,

この *no* は不定代名詞で、*wa* は (a) の *wa* である。

(c) *no* 以外の關係詞につづくのは、全體を關係詞と
見てつけて書く。

niwa, *karawa*, *madewa* など。

(d) 動詞形容詞の續く形と副詞ともつける。

• *kaitewa*, *kakanaidewa*, *yokutewa*, *yokuwa*.

この外、*dewa*, *towa*, *kawa*, *bakariwa*, *guraiwa*
等はそこを見い。

2. (呼)

soryâ sô da wa!

dô demo yoi wa!

wake (附名) 「理窟」「事情」の意味の軽い場合には小文字
で書く。

kôiu wake de,

\sim *wari* (助數) 「何割」の *wari* は助數詞ゆゑ、

itiwari, gowari.

「割がわるい」の「割」は名詞だから、

Wari ga warui.

wariaini, warini (副)

wariaini (warini) ôkii Ie.

Ie no wariaini (warini) tiisai Mongamae.

「何の割合に従つて」などでは、「に」が「何に従ふ」の「に」であるから。

Gekkyû no Wariai ni sitagatte.

などを書く。

waruku (副組) 独立の形容詞「わるい」の副詞形は別として、次のやうなのは一つづけに書く。

unwaruku, kimariwaruku.

これを形容詞形にするときには、次のやうに云ふ。

Un no warui Toki.

Kimari no warui Omoi.

we, wi 現在の所、かういふ綴りは外国語の音を示す場合の外、使はない。併し、weの方は、uweru, Uwekiなどに使つても悪いことはないと思はれる。

wo woの綴りは、外国語を寫す場合は別として、現在の處關係詞のwoだけに使つて居る (§34)。其他に將來或はそれを使ふことにしてもよいかと思ふのは、Uwo (魚)、Iwô (硫黄)、iwô (云はう)、owô (追はう)、awô (逢はう)、kuwô (食はう)の類である。

wo (關) (ba, mo)

Sake wo nomuna!

Kuni wo saru.

kaita no wo okure!

「雲を霞と逃げる」は一才變つた使ひ方であるが、矢張り Kumo wo Kasumi to nigeru と書くより外に仕方がない。

「をば」は wo に wa のついたものが音便で變つたのであるから woba (併し「伯母」は Oba) (§285). monowo についてはそこを見い。

Y

ya 1. (廣)

sore ya kore ya de.

tuyoku ya yowaku ya iroironi yatte mita.

2. (呼)

soryâ warui ya!

Yakkai (名), yakkai^{na} (形) (ni, | de) (§216).

Hito no Yakkai ni naru.

taihenna Goyakkai ni narimasu.

taihen goyakkaini narimasita.

yakkaina Otoko.

yamuwoe^{nai} (形) (zu 副)

yamuwoenai Yôzi ga atte,

yamuwoezu kô simasita.

「止むを得ません」は yamu wo emasen とする。

yara (廣) 並べるのも疑ひのも離して書く。

Kane yara Kimono yara wo kureta.

nani yara omoi Mono wo moratta.

amai yara karai yara wakaranai.

yasui (形組) つなぎを挿んでつける。

kaki-yasui, benkyôsi-yasui.

Kane wa Netu wo tutae-yasui.

Yatu (名) warui Yatu, airasii Yatu のやうな場合。

yatu (代) 不定代名詞の「の」と云ひかへられる場合。

Zyôbukuro no ôkii yatu mo okure!

ayatu, koyatu, soyatu 等も代名詞。

yayamosureba (副) 口語文では、「兎角何何し易い」といふ

やうな文句に改める方がよい。

ye この綴りはローマ字では使はない。英語式でその使

はれる所には凡て e を使ふ。金高の「圓」も同じこ

とで、外國語の中では yen が行はれて居るけれども、

ローマ字文では En と書く (§ 227)。

yo 1. (動尾) 五段活用以外の動詞の命令の形を作る。

併し口語の標準の形には i の語尾を取りたい (§ 175)。

miyo! ukeyo! seyo! (mii! ukei! sei!)

2. (呼) これは離す。

sô da yo! umaku dekuru yo! ikenai yo!

uresii yo! yukô yo! yuke yo!

五段活用の命令形の次に來る yo は呼かけの yo である、それを省いても意味に變りがないから。

yoi (形組) 前へつける (便宜に應じてつなぎを挿んで)。

kakiyoi, benkyôsi-yoi.

yoku (副組) (a) 動詞の中止形に yoi のついた形容詞

(yoi に出したもの) の副詞形。

yomiyoku, wakariyoku.

(b) 名詞へついたもの。

genkiyoku, ikioiyoku.

これに對する形容詞は

Genki no yoi. Ikioi no yoi.

yô 1. (動尾) 五段活用以外の動詞の未來形の語尾。これは前へつける。

kore wo ageyô. sô siyô.

2. (名組) 動詞に添へて名詞を作る yô も前へつける。

Kakiyô (=Kakikata, Kakiguai).

Siyô ga nai.

yôna (形) (ni, | de) 次のやうなのは yô の前を離す。

Hana no yôna Kao.

Hi no yôni atui.

tumetakute Kôri no yô desu.

tukareta yôna Kimoti.

wakaru yôni omou.

osorosii yô desu.

anoyôna, konoyôna, sonoyôna, donoyôna は一つづ
けに書く。

yorî (mo, ka, wa, kamo, kawa) (關) 比較の yorî.
nani yorî (yorimo, yorika, yorikamo) omoi.
kore yorîwa (yorikawa) karui.

kara の意味で yorî を使つてはいけない (§ 285)。

Yorû (名) 副詞に使ふ場合でも大文字で書く。

ototoi no Yorû anohito ni aimasita.

yueni (接)

yûbe (副) 「昨夜」の意味ならば小文字。

watasi wa yûbe kaette kimasita.

「夕方」の意味ならば大文字で書く筈であるが、口
語では大抵 Yûgata と云ふにきまつて居る。

Z

ze (呼) 前と離す。

atui ze!

mô yuku ze!

zehi, zehitomo (副)

zenbu (附名、副) zentai と同様。但し zenbuni という副
詞は使はない。

zentai 1. (附名) 名詞に添ふときも、獨立のときも小文
字で書く。

Sekai zentai ga

zentai wo hutatu ni wakete,

2. (副) (ni, no)

Mati ga zentai (zentai) sabireta.

zentino Mati ga

「世界全體にはやる」は 1 の方の「全體に」だから、

Sekai zentai ni hayaru.

zibun (代) 「自分」の意味のもの、小文字で書く。

Zibun (名) 「時分」の意味のもの、大文字で書く。

yoi Zibun ni. kono Zibun kara.

Ooikusa no Zibun ni.....

但し副詞に使ふので軽いのは小文字にする。

.....sita zibun,

次のやうな組合せ語は一つづけに書く。

Hiru-zibun (名)、Tuyu-zibun (名)

imazibun (副)

zo (呼) 前と離す。

atui zo!

mô yuku zo!

zituwa (接、副)

zituwa, watasi ga yuku hazu datta.

sore wa zituwa Uso desu.

zu, zuni (動尾)

kakazu (否定中止形)、kakazuni (否定の續く形)

omowazu (副) もこの種類。

Zyama (名)、zyama[~]na (形) (〓ni, | de) (§216).

Hito no Zyama ni naru.

Hito ni zyamani naru.

zyamana Otoko.

〓zyô 1. (名組) 大文字で書く (§152)。

Tikyûzyô ni bunpaisarete.

Tikyûzyô dewa.

2. (副、組) (〓no) 小文字で書く (§152)。1 とちがふ
點は、次に關係詞なしに副詞として使へることであ
る。

rironzyô tadasii.

zizituzyô kara.

gakumonzyôno Hanasi.

Zyu-Itii, Zyu-Zanmi,

索 引

数字は頁数を示す。Z は巻末の「文法字引」の標し。

A

新しい語の選び方 185—188.

B

ba Z, 128.

萬國的な綴り方 24.

文語體の書き方 208—216.

文章の組立 174—176.

「文主」175—176.

C

Chamberlain 1, 15, 31.

D

代名詞 112—114; 不定——

113—114.

de の使ひ途 Z, 115—116.

di, du, dya 等と zi, zu, zya

等との書き分け 31—35.

domo Z, 108.

Dono, don Z, 107.

動詞 120—137; の固有の變

化 124—125; 指定の, 130;

存在の, 130; の特別な形
128—130.

動詞語尾, 受身の, 可能の, 敬
讓の, 使役の, 133.

動詞變化と綴り方 7—8

dyû Z, 109.

E

英語, と ロ - マ 字 21—23; と
sy, zy, ty, dy 6.

圓(金高の) 28, 157—158.

G

ga Z; (關) 116; (接) 171—
172.

gata Z, 108.

Go と O Z; 動詞につく, 131,
134; 名詞につく, 107.

五十音圖と綴り方 13—15.

外國の ti や tu の書き方

25—27.

外国の人名や地名, の書き方
67—71; の読み方の表し
方 70—71.

外国語の書き方 64—67.

外国人とローマ字 23—25.

H

はがき 206.

はねる音, の書き方 59—61;
の性質 16.

へボン式綴り方 I; と日本式
綴り方との比較 7—25.

日附 159.

引く音の書き方 54—59.

廣さ詞 163—170; の形容詞
形 168—170; の性質 164;
の使はれ方 167—168.

hito Z, 113.

hō Z, 113.

副詞 150—155; の形容詞形
154—155; 時の 151—152,
155.

副詞形, 動詞の, 136—137;
形容詞の, 137—139.

ふせ字のしるし 84.

二つ點 82.

I

言ひ方, の選び方の根本の方
針 177—178; の選び方の
例 189—200.

引用のしるし 84.

言ふ人の綴り方 19—21.

K

假名遣ひと綴り方 27—35.

漢字の反切と綴り方 11—12.
肩書き 201—203.

片山式綴り方 41—44.

形容詞 137—150; 物質名詞
の, 140; 動詞から來た,
144—145; の動詞形 145—
147; 漢語の, 137; 副詞か
ら來た, 154—155; の副詞
形 137—138; と名詞と兩
方に使はれる詞 148—150;
特別な, 139—145.

形容詞形, 動詞の, 133—134;
副詞の, 154—155.

koto Z, 113.

ことば, 新しい, 185—188; の

選び方の根本の方針 177
—178; の選び方の例 179
—185; 字の形などに關係
した, 188—189.

ことばの種類 98.

ことばの順序 96; 變つた,
96—97.

ことばの役目の種類 94.

區別のしるし 88.

句切り 81.

組合せ詞; の動詞 123; の固
有名詞 111, 112; の名詞
110; の付け離し 92—94.

黒川眞頼 50.

kwa, gwa 30.

科學的な綴り方 18—19.

括弧 83; 角——(又はかぎ
——) 83.

關係詞 114—120; の形容詞
形 116—118.

脚註のしるし 84.

L

Lange 15.

M

masu Z, 132.

名簿の列べ方 72—73.

命令形, 動詞の, 125—126.

名詞 100—112; 動詞から出
た, 135; と形容詞と兩方
に使はれる詞 148—150;
に大文字を使ふこと 101
—102; 大文字を使はない
場合 102—106; 特別な,
108—109.

名詞形, 動詞の, 134—136.

mo Z, 165—167; 動詞につ
づく, 135; 關係詞につづ
く, 118—120.

mono Z, 113.

N

na Z; (動) 130; (動尾) 126,
132; (形尾) 137; (呼) 173.

名刺 203.

名前の書き方, 日本人の
71—73.

南部義籌 3, 37.

南部式綴り方 37—39.

鳴海式綴り方 44—47.

ni Z; (形尾) 137—139, 149.

—150; (關) 116; (接) 172.
 日本語の性質と綴り方 7—12.
 日本式綴り方 4; の萬國的な點 24; と假名遣ひ 27—35; の過去と將來 48—51; の立場 28, 29.
 日本人の姓名の書き方 71—73.
 no Z; (代) 113—114, 119—120; 動詞につづく, 136; 副詞につづく, 154—155; (形尾) 137, 139, 143; (關) 116—118; 數詞につづく, 161—162; 時の副詞につづく, 155.
 抜け字のしるし 87.
 O
 O と Go Z; 動詞につく, 131, 134; 名詞につく, 107.
 音を上げるしるし 88.
 音を引くしるし 87.
 onazi Z, 148.
 音便變化, 形容詞の副詞形の 59, 138; と綴り方 8—10.

音聲學と綴り方 15—17.
 大句切り 81.
 大槻磐水 49.

R

ra Z, 108.
 連體形, 動詞の, 133—134.
 連用形, 動詞の, 136.
 陸地測量部 51.

ローマ字, の名前 74—80;
 の教へ方の方針 51—53;
 の初學者に對する名前 78—80; を使ふ趣意 2. [綴り方を見い]

ローマ字會式の綴り方 1.

S

左近式綴り方 39—41.
 索引の列べ方 72—73.
 Sama, San Z, 107.
 省略のしるし 83.
 線 83.
 接續詞 170—173.
 島津齋彬公 50.
 標し 80—89.
 「總主格」175—176.

suru の動詞 Z, 120—122.
 數詞 155—163; の形容詞形 161—163; の使はれ方 160.
 數字を使ふこと 158—159.
 書式, いろいろな, 200—207.

T

田中館(愛橋)博士 3, 13, 50.
 tati Z, 108.
 手紙, の書き出し 204; 書き納め 205.
 てにをは 100.
 地理上の名前 112.
 to, Z; 條件の, 127; (廣) 164; (副尾) 151; (關) 115; (接) 172.
 tokoro Z, 114.
 所書き 200—201.
 止め 80.
 稻留式綴り方 47—48.
 問ふしるし 81.
 綴り方, の比較論 7—27; 變つた, 35—48; 主な音の, 1—53; 主な音の他の音の,

54—73; 世界に於ける, 24—25; 特別な音の, 63—64.
 附け離しの一般の規則 90—92.
 附添ひ名詞, の一 103—105; の二 105—106; の三 106.
 つまる音の書き方 61—62.
 つなぎ 85; の使ひ方 94.
 包み物の上書き 207.
 中央氣象臺 51.

U

u を省く綴り方 35—37.
 受取り書き 207.
 打消しの言ひ方 192.

W

wa Z, 165—167; 動詞につづく, 135; 關係詞につづく, 118—120.
 分けるしるし 87.
 we, wi Z, 29.
 wo Z, 29; (關) 116.

Y

呼かけ詞 173—174.

呼ぶしるし 81.

Z

zi, zu, zya 等と di, du, dya

等との書き分け 31—35.

字引の列べ方 72—73.

時刻 159.

字音動詞 120—122.

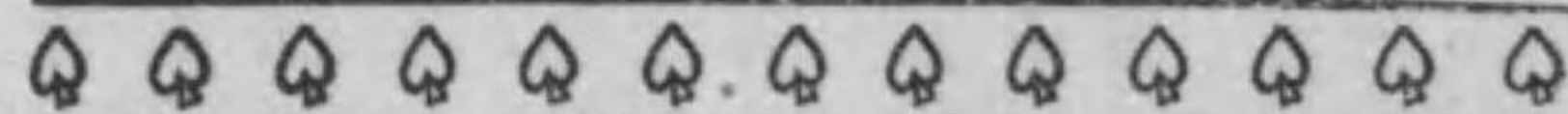
實用上から見た綴り方 12—13.

助動詞, 可能の, 133; 敬讓の, 131—132.

zyô Z, 109.

状袋の書き方 205—206.

助數詞 156—157, 159.



大正九年十一月^{二十七日}印刷
大正九年十一月^{三十日}發行

價貳圓

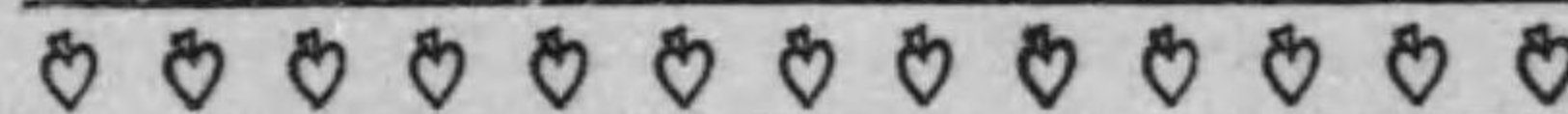
著者 田丸卓郎
發行者 東京市本郷區駒込曙町十一番地

印刷者 石村勳
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舎第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 日本ローマ字社
東京市本郷區駒込曙町十一番地
(振替貯金口座 東京二一五〇四番)
(電話 小石川 七〇一番)

大賣捌所 東京 丸善・東京堂・上田屋
東海堂・北隆館・岩波・岡村
大阪西區 文徳堂・京都寺町通 蟹屋
常安橋 夷川上九



上品で、有益で、面白い
全部日本式ローマ字書きの一般向雑誌

RÔMAZI SEKAI

毎月一回一日発行 (送料共) 一部廿銭 一年前金二圓

- 我國の世界的發展の爲に緊急な國字問題の實地解決と●●
- ローマ字文の書き方の標準を與へるのが此雑誌の目的●●

- 「評論と觀察」には國語國字問題其他一般の評論。
- 「新しい智識」には斯界第一流の學者の學術上の記事。
- 「家庭」には園藝、お伽噺、其他健全な家庭趣味。
- 「文藝及び雜錄」には進歩的な女士畫家の新鮮な作物。
- 田中館博士擔當の「飛行だより」には飛行機飛行船に關する新しい論文や出來事を載せる。
- 「日本語研究」は此雑誌に獨特な眞面目な讀み物。
- 「讀者文藝」欄は況く讀者に提供した文藝研究の庭。

發行所 日本のローマ字社

東京市本郷區駒込曙町十一番地
振替 東京 二一五〇四・電話 小石川 七〇一

社友規則の要點

社友は「日本のローマ字社」と連絡を保つて、ローマ字の擴めとローマ字文の讀み書きとに努めるといふ目的で、下に記す社友費用を出す人。

- 社友の特典 a. 月刊「ローマ字世界」每號一部宛の配布を受ける。
b. ローマ字に關して意見や質問を本社に出すことが出来る。

社友費用 一ケ年貳圓(外國に居る人でも)。

手續き 社友費用一年(又は半年分)を添へ、姓名住所をローマ字(又は假名)と漢字とで書いて社友になりたい旨を本社に申込むこと。身分や職業も成るべく通知されたい。(この申込は振替用紙で出来る)。

- ➡ { ローマ字國字論の要點、日本式ローマ字の據り處、其他 }
{ ローマ字に關係した事は往復端書で(又は郵便切手三錢 }
添へて)お申越になれば、その説明書を差上げます。

Nippon-no-Rômazi-Sya no Hakkôbutu.

Rômazigakino Sôsyô "Rigaku"

Rigakuhakusi Tamaru-Takurô arawasu.

1 no Maki **Sindô** *Sinagwa. Sonoutini Saihan ga deru.*
Rikigaku, Bibungaku, Sekibungaku no Dodai kara hazimete, iroirona Sindôtai no Sindô ga ronziite aru. Kôtôgakkô, Senmongakkô izyô no Gakkô no Gakusei no yoi Sankôsyô.

Rigakuhakusi Terada-Torahiko arawasu. (Kakitasita Dainino Han.)
2 no Maki **Umi no Buturigaku** *Nedan 1 En 80 sen.*
Umi to Uminomidu no iroirona Kotogara, kotoni Nami, Usio, Kairyû ga kuwasiku ronziite aru. Umi ni kwankeino Hito wa motiron, ippano Hito nimo omosiroi Yomimono.

Rigakuhakusi Ikeno-Seiitirô arawasu.
3 no Maki **Zikken-Idengaku** (Kakiaratameta Daisanno Han.)
Nedan 2 En 80 sen.

Kono Hon wa Nippongo de kaita Zikken-Idengaku no itiban sugureta mono de aru. Teineina Sakuin wo môkete, Zyutugo sonohoka yôyôna Kotogara ga sirabe-yasuku site aru.

Daisanno Han niwa, Ningen no Iden to Ine no Iden ga tokuni kuwasiku toite ari, mata Zikken-idengaku no Okori tomo iubeki Mendel (menderu) no Ronbun no subete no Hanasikotoba-yaku ga soete aru.

Dôbutu ya Syokubutu ni Kwankei no aru Hito wa motiron, ippano Hito nimo Tame ni natte omosiroi.

Kono Sôsyô niwa, nao Tanakadate Hakusi ya Kinosita Hakusi nado no arawasareta mono ga deru hazu.

Rômazigakino Sôsyô "Akebono Bunko"

Narumi-Uraburu arawasu.

1 no Maki **Tuti ni kaere** (Sisyû)
Nedan 75 sen.

Hanasikotoba de kaita Misohitomozi to Sintaisi. Mazime de surudoku, yonde dare nimo omosiroi.

2 no Maki **Hyakunin Issyu** *Nedan 75 sen.*

Issyu-issyu no Hanasikotoba no Hon'yaku, kuwasii Tokiakasi; Iware, Uta tositenô Neuti ni tuiteno atarasii Kenkyû; hokano sugureta Uta; Yomibito, kamino Ku, simonô Ku no mitôrinô Sakuin.

Kono Sôsyô niwa Tubouti Hakusi, Terada Hakusi, Toki-Aikwa Udi nado no Sakur ga tuduite deru hazu.

"Rômazi Sekai" no Todiawase.

1, 2, 3, 4 no Maki, *Nedan 1 En 30 sen.*
5, 6, 7, 8 no Maki, *Nedan 1 En 50 sen.*
9 no Maki, *Nedan 2 En 60 sen.*

Honsya no Hakkôbutu wo Honsya ni tyokusetu gotyûmon no Daai niwa Okuriryô wa irimasen.

日本のローマ字社の発行物

理學博士 田丸卓郎 著す

ローマ字國字論

價 壹圓

ローマ字を國字にすることの必要及利害、その實行方法、ローマ字反對とその批評の三部からなつて居る

田中館、芳賀、田丸の三博士 合著

ローマ字読み方

(字綴りがるた添ひ) 價十五錢

兒童用、生徒用のローマ字教科書として之に優るものはない。字を覺へると同時に練習が積める様にしたことや、字綴りがるたを並べて遊ぶ間にローマ字の綴り方を覺える様にしたことなど、仕組が總て獨得である。

同上三博士 合著

ローマ字獨げいこ

價 三十錢

大人の初學者又は教師用には最も適切なもの。ローマ字國字論、綴り方の議論、言葉の附け離し、文章の書き方などの要點もあり、文例も色々なのが澤山ある。

名士の筆蹟入り

ローマ字 Syúzidyô

價 二十錢

日本語で書いた完全なローマ字習字帖はこれがあるばかり、特に巻末に添へた諸名士の筆蹟は趣味が深い。

ローマ字教授實驗報告

往復端書で(又は郵便切手二錢添へて)お申越しになれば差上げます。

土岐哀果 作歌 多梅雅 作曲

お伽唱歌 りらしま

價 十五錢

「浦島」外二種を假名とローマ字で書いたもの。歌も曲も面白い。

田中館、芳賀、田丸の三博士 合著
參版 Kotowazadukusi

價二十錢(三版中)

諺三百と諺の應用を示す面白い話。字體も大きいから、ローマ字文讀み方の練習には持つて來いの讀み物。

芳賀博士 関す 土岐哀果 著す

増補再版 Mukasibanasi

(挿繪入り) 價二十五錢

桃太郎、舌切雀外五種。潤ひのある文と趣のある挿繪。

Seiyô Monogatari

價四十五錢

西洋のお伽噺や譬喩を長短三十八種集めた美しい本。

Seiyô Rekisibanasi

價四十五錢

西洋の昔からの名高い人達の面白い逸話などを集めた有益な讀み物。

理學博士 今村明恒 編纂

東京辯

價四十五錢

地方の小學校中學校の生徒及び地方出の學生などの爲めに抑揚を主にした東京辯の説明、會話、語彙がある

芳賀博士 関す 本社 編纂

英文日本口語文法

價五十錢

ローマ字で書いた口語日本語を英文で説明した斬新な文法書。巻首に日本式の立場の詳しい論文が出て居る

芳賀博士 関す 本社 編纂

英文日本口語袖珍

價二圓

上の本に會話と單語を加へて、外國人の日本語を學ぶ目的にしたもの。英語の會話を覺えるのにも適切。

本社の発行物を本社に直接御注文の場合には送料はいりません。

エト4J-38

日本のローマ字社の発行物

ローマ字 日の丸文庫 少年叢書

價一部二拾錢・ニツ番號のものは倍額

「日の丸文庫」は中味の種類を限らず、何でも面白くて有益な少年向のものを、次ぎ次ぎに出して行く「次ぎ次ぎもの」です。

— 出たもの —

1. ^{ふりがな}つき ^{ローマ字}手ほどき 芳賀博士 関す
楠島文衛 編む
假名を知つて居る者なら、誰でもすぐローマ字が覺へられる。
2. おとぎうた 土岐善磨 作る・鈴木淳 畫く
土岐氏獨特の童謡。大人が讀んでも面白い。
3. 神代の話 芝野六助 編む
神武天皇以前の話を面白く書いたもの。
4. 5. グリムお伽噺 内藤豊一 翻譯する
有名なグリムの童話の忠實な翻譯。

ローマ字大札及懸板

田丸博士 考案
價 二圓五十錢

(一組 大札、百八枚、懸板 二枚)

懸板は何枚でも上下につないで懸けられ、二枚あれば普通の諺が並べられる。教授用として便利、家庭用の遊戯として面白い。

ローマ字 ^マ松 ^{タケ}竹 ^{ウメ}梅

田丸博士 考案
近藤浩一路 意匠

價 二圓

六ツの面にローマ字が一字づつ書いてある奇麗な四角な駒を並べて遊ぶ玩具。面白く遊びながらローマ字が覺えられる。

百人 ^{ローマ字}歌がるた

芳賀文學博士 関す
日本のローマ字社 綴る

價 壹圓二拾錢

新しい時代の歌がるた！ローマ字仲間のカルタ會には是非ともこれ！！

● 本社の発行物を本社に直接御注文の場合には送料はいりません。

323

365

終